

2020 年度(令和 2 年度)

事業報告書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)



TCM

学校法人東京音楽大学

事業報告書目次

I. 法人の概要

1. 大学の理念・目的	1
(1) 建学の精神と理念	
(2) 教育目的	
(3) 使命・目的	
(4) 東京音楽大学ビジョン	
2. 設置学校	5
3. 沿革	5
4. 学校組織図(教育・研究組織)	7
5. 法人・事務組織図	8
6. 役員・評議員の概要	9
7. 設置学校の入学定員・収容定員・学生数	10
8. 附属図書館蔵書数	11
9. 教職員数	12

II. 事業の概要

1. はじめに	13
2. 2020年度基本方針の実施	13
(1) 「東京音楽大学ビジョン」の実現	
(2) 社会の変化に対応した「教育改革」	
(3) 私立学校法改正に対応した積極的取組み	
(4) 池袋キャンパスの施設整備計画の推進	
3. 中期目標・中期計画及び事業計画に関する活動等	15
(1) 教育活動	16
(2) 研究活動	21
(3) 学生支援活動	25
(4) 入試・広報活動	32
(5) 国際化	34
(6) 地域連携・社会貢献活動	35
(7) 附属教育研究組織	40
(8) 附属学校等	48
(9) 業務運営の改善及び効率化	54
(10) 法人運営の改善	58
(11) 施設整備計画	58

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要	60
(1) 貸借対照表の状況	
(2) 収支計算書の状況	
2. 経年比較	64
(1) 貸借対照表	
(2) 収支計算書	
3. 主な財務比率比較	68
4. その他	69
(1) 有価証券、借入金、学校債、その他重要な資産・負債、収入・支出の状況	
(2) 収益事業の状況	
(3) 関連当事者等との取引等の状況 等	

I. 法人の概要

1. 大学の理念・目的

(1) 建学の精神と理念

東京音楽大学は、鈴木米次郎により明治40年(1907年)に設立された東洋音楽学校を前身とする、我が国で最も古いルーツを持つ私立音楽大学である。昭和38年(1963年)に4年制大学として認可され、続いて昭和44年(1969年)に東京音楽大学と名称変更し、平成5年(1993年)に大学院音楽研究科修士課程を、平成26年(2014年)に博士後期課程を設置し、現在に至っている。

創立者、鈴木米次郎は常々「音楽を通して社会に貢献する」と語り、私立学校設立認可願にも「汎ク音楽ニ関スル学科及術科ヲ以テ高潔ナル品性ノ修養ヲ得セシムルニアリ」と記されている。鈴木は、西洋音楽に関する学問の探求と高度な音楽技量の修得を通じて教養豊かな音楽家及び音楽教育者を育成し、それによって社会に貢献することを願っていた。

この建学の精神は、「アカデミズムと実学の両立」、「音楽による社会貢献」、「国際性」として、創立当初より、修業年限を東京音楽学校(現・東京藝術大学)と同じ3年(他の私立音楽学校は1～2年)とすること、点字楽譜を開発すること、清国留学生を積極的に受け入れること(これら留学生は中国における西洋音楽教育普及に尽力した)、卒業生を「船の楽士」として太平洋航路の客船に乗船させること等の実践活動を通じて実現されてきた。

この精神は、本学における教育の基本理念として現在の学則にも反映されており、社会の第一線で活躍する教師陣等による我が国でも最高レベルの教育水準を保つことにより、国内外の著名なコンクールやオーディションなどの入賞者、入選者を例年多数輩出し、音楽界、教育界、さらに近年では音楽産業分野にも優秀な人材を送り出すに至っている。

(2) 教育目的

学則では、本学の教育目的を次のように謳っている。東京音楽大学学則には、「本学は、教育基本法の精神に則り、広く一般教育の知識を授けるとともに、音楽の専門教育を行い、これを通じて人格の完成をはかり、もって有為な音楽家を育成することを目的とする。(学則第2条)」とし、「本学は、音楽芸術の研鑽を通じて、高度な専門性を有した音楽家、音楽教育者を育成する。また、自らの音楽的個性とともに幅広い教養を備え、現代社会の様々な局面に対応しうる人材を育成することを教育目標とする。(学則第2条の2)」としている。

また、東京音楽大学大学院学則には、「本学大学院は、広い視野に立って、音楽に関する精深な学術と技能を修得させ、音楽専攻分野における研究能力と高度な専門性を有する職業等に必要とされる能力を養い、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする。」としている。

(3) 使命・目的

東京音楽大学では互いに関連しあう6つの使命・目的を定めている。

① 教育

音楽の高度な専門教育を実施することによって、実力ある音楽家、音楽教育者、音楽研究者を始めとし、広く音楽界に貢献する人材の育成を第一の目的とします。専門教育だけではなく一般科目との連携によって、個の確立、協調性と社会性の獲得を目指し、「アカデミズムと実学の両立」の精神による、現代社会に通用する人間の育成を目指します。

②演奏

学生に多くの演奏の機会を与えるとともに、それによって多くの人々に、演奏に親しむ機会を提供します。演奏活動を通して学生の演奏能力の向上を図り、同時に自立する力や社会性を育てます。また、演奏会の企画、運営などを学ぶ場も設定し、音楽を社会に提供する姿勢を育んでいます。

③国際性

ヨーロッパやアジアの様々な大学と提携し、学生の派遣、演奏家や教育者の招聘によって、国際的な視野を持つ人間を育てることに努めます。学生オーケストラ、吹奏楽団の海外演奏会も行います。

④研究

教員自ら修練を重ね、優れた音楽を演奏し、社会に提供することに努めます。実践的な音楽演奏に留まらず、演奏法や指導法の開発、新しい音楽の創造、その基盤となる音楽研究、それらを支える様々な研究領域についても研鑽を積みます。また、卒業後も研究を望む学生のために大学院を設置しています。

⑤多様な音楽的価値観の尊重

西洋の伝統的な音楽だけでなく、日本、アジアを始めとする様々な音楽的価値への多角的な視点を獲得する機会を提供します。ジャズ、ポピュラー音楽などについても講座や専攻を開設することによって、より広い視野や多面的な能力を持つ音楽人の育成に努めます。

⑥地域連携

地域の自治体や様々な学校との連携を促進します。学校で開かれるコンサートは地域に広く公開し、公開講座などを通じて地域とのつながりを大切にします。

(4) 東京音楽大学ビジョン

近年、大学を取り巻く環境が様々に変化する中、迅速かつ柔軟に対応することが求められており、本学が目指すべき方向性や将来像を明確にし、本学の社会における存在意義や基本的な使命を示す必要がある。

2017年11月、理事会の下にワーキンググループ(ビジョンWG)が設置され、ビジョン草案の検討が開始された。本学を取り巻く状況が10年後、20年後にどう変化するかという大きな時代の流れを把握し、個性化の観点からも戦略的な思考により、ミッションの意義を改めて確認した。長期的に本学のあるべき姿を示すという観点から、本学が目指す基本的な方向性や将来像を踏まえたうえで、教育・研究・社会貢献・経営等の方向性や将来像を示すべきとの考え方とともに、現状からの延長線ではなく、レベルの高度化と望ましい方向性を示すべきであるとの考え方に基づき、建学の精神を核にしつつ、これからの本学に求められる社会的役割について検討を行った。

2018年11月、ワーキンググループは、11回におよぶ会議開催によりビジョン草案を取りまとめ理事会に報告し、その後、審議を重ね、2019年1月11日開催の理事会において、「東京音楽大学ビジョン」を策定し、教職員に周知するとともに、学内外に広く公表した(策定された「東京音楽大学ビジョン」は以下のとおり。)

東京音楽大学ビジョン

— 音楽文化の新たな地平を拓く —

東京音楽大学は、1907年の開学以来、建学の精神である「音楽を通して広く社会に貢献できる人材の育成」を目標に、演奏活動を通じて海外協定機関等との緊密で多様な音楽文化の交流を育みながら、演奏力を安定的に発展、成熟させるとともに、教育研究の世界展開に多くの成果を挙げてきました。

本学は、急速な技術革新やグローバル化が進展する現代社会にあって、伝統を継承しつつ、常に新たな教育と研究の道を模索してきました。2017年4月には、音楽を柱に、教養と英語の能力も身につけて世界のあらゆる分野で活躍できる人材を育成する「ミュージック・リベラルアーツ専攻」を開設し、2019年4月には、新たに「中目黒・代官山キャンパス」を開校するとともに、「吹奏楽アカデミー専攻」を開設するなど、教育研究の質の飛躍的向上と充実に取り組んで参ります。

新しい時代に向けて音楽文化を創造し、音楽により、また音楽を通して、急激に変化する社会の様々な要請や期待に応えていくことを目指して、「東京音楽大学ビジョン」を定めました。

1. 全学を挙げた先進的な活動により、音楽文化の新たな地平を拓きます。

音楽は、人間の感性に直接働きかける力を持ち、あらゆる境界を越えて広がっていく可能性を秘めています。

本学は、先進的な教育、研究及び社会貢献等を基盤として、人の心を自由にし、豊かな未来を実現する音楽文化の新たな地平を拓きます。

2. 変化し続ける社会を見据えて、音楽で感動を与え、音楽で明日をつくる人材を育成します。

急速な技術革新やグローバル化等により絶えず変化する社会にあって、音楽大学には、演奏や音楽活動を通して人びとに感動を与え、その精神を崇高にし、多様な価値観を受け止められる感性を有する人材の育成が求められます。

本学は、学生一人ひとりが音楽に関する高度で専門的な知識・技術とともに豊かな教養を身につけ、西洋・東洋の枠を超えた多様な音楽文化や、音楽とITを融合する最先端の分野等についても多角的な視点を持った人材を育成し、社会のニーズに応えます。

大学院教育については、その質の格段の向上と、未来を牽引する人材を育成する観点から、教育研究組織の改編を含め抜本的な改革を推進し、その進化を図ります。

3. 音楽文化の多角的な研究を展開し、広く成果を発信します。

音楽文化の多様化、複雑化が進む現代において、未来を切り拓く多彩なアプローチによる音楽文化に関する研究や、本学の強みである演奏法や指導法の開発を推進し、異分野の研究者との共同研究を組織的に展開します。これらの最新の研究成果を教育に反映するとともに、世界に発信します。

また、附属民族音楽研究所においては、アジア音楽の研究拠点として創造的な研究を推進します。

4. 双方向の国際交流を活発化し、多文化が共存するキャンパスを目指します。

グローバル化が進展する中で新たな音楽文化を創造するには、歴史とともに社会をよく知ることが求められ、多文化が共存するキャンパスであることが不可欠です。

多様な価値観を尊重することの重要性を踏まえ、教職員、学生及び教育研究等について双方向の国際交流を活発化するとともに、多様な背景を持った人の受入れを積極的に推進します。

これらを通して国際性に富んだ人材を育成するとともに、国際交流推進のための環境整備を図ります。

5. 鋭意音楽活動を展開し、地域社会の活性化、文化力の向上に積極的に貢献します。

音楽活動を通じて地域社会から求められる社会貢献活動を行い、地域社会の活性化及び文化力の向上に貢献します。

そのため、地域社会に開かれた大学として、自治体、音楽関係団体、音楽コミュニティ、さらに校友会等との連携及び協働によるコンサート、公開講座、ワークショップ、音楽祭等を活発に展開します。また、自治体、産業界、音楽コミュニティ等の要請により本学の学生及び教職員を積極的に派遣し、魅力ある地域づくりに貢献します。

6. クリエイティブ・キャンパスを創出・運営し、構成員が自ら成長し続ける大学を実現します。

本学は、2019年4月に中目黒・代官山キャンパスを開校し、従来の池袋キャンパスとの連携の下、機能性、創造性、知的生産性、安全性及びICT環境等を備えた「クリエイティブ・キャンパス」を創出・運営して、教育研究の質の一層の向上を図るとともに、教職協働による働き方改革を積極的に推進し、教職員及び学生が自ら成長し続ける大学を実現します。

また、付属高等学校を池袋キャンパスに移転統合して実効性のある高大接続改革を推進します。

そのため、大学の将来を見据えた経営戦略に基づく財務計画を策定し、中長期的な財政基盤の確立を図ります。

2. 設置学校

(1) 東京音楽大学

音楽学部	音楽学科	器楽専攻 / 声楽専攻 / 作曲指揮専攻 / 音楽文化教育専攻 / ミュージック・リベラルアーツ専攻 / 吹奏楽アカデミー専攻
大学院音楽研究科(修士課程)		器楽専攻 / 声楽専攻 / 作曲指揮専攻 / 音楽文化研究専攻
大学院音楽研究科(博士後期課程)	音楽専攻	

(2) 東京音楽大学付属高等学校

音楽科	声楽専攻 / 器楽専攻 / 作曲専攻 / 音楽総合コース
-----	------------------------------

(3) 東京音楽大学付属幼稚園

3. 沿革

【明治】

1907年(明治40年)5月 東洋音楽学校設立(神田区)

【大正】

1924年(大正13年)11月 豊島区雑司ヶ谷(現南池袋)に移転

【昭和】

1947年(昭和22年)5月 財団法人東洋文化学園と改称

1949年(昭和24年)3月 東洋高等学校(音楽科)開設

1950年(昭和25年)2月 東洋幼稚園開設

1951年(昭和26年)3月 学校法人東洋文化学園認可

1954年(昭和29年)2月 東洋音楽短期大学設置認可

1963年(昭和38年)2月 東洋音楽大学設置認可

1969年(昭和44年)8月 名称変更認可

- ・学校法人東洋文化学園を学校法人東京音楽大学に改称
- ・東洋音楽大学を東京音楽大学に改称
- ・東洋高等学校を東京音楽大学付属高等学校に改称
- ・東洋幼稚園を東京音楽大学付属幼稚園に改称
- ・東洋音楽学校を東京音楽学校に改称

1970年(昭和45年)3月 東洋音楽短期大学廃止認可

1976年(昭和51年)7月 東京音楽学校廃止認可

【平成】

1993年(平成5年)3月 東京音楽大学大学院音楽研究科修士課程設置認可

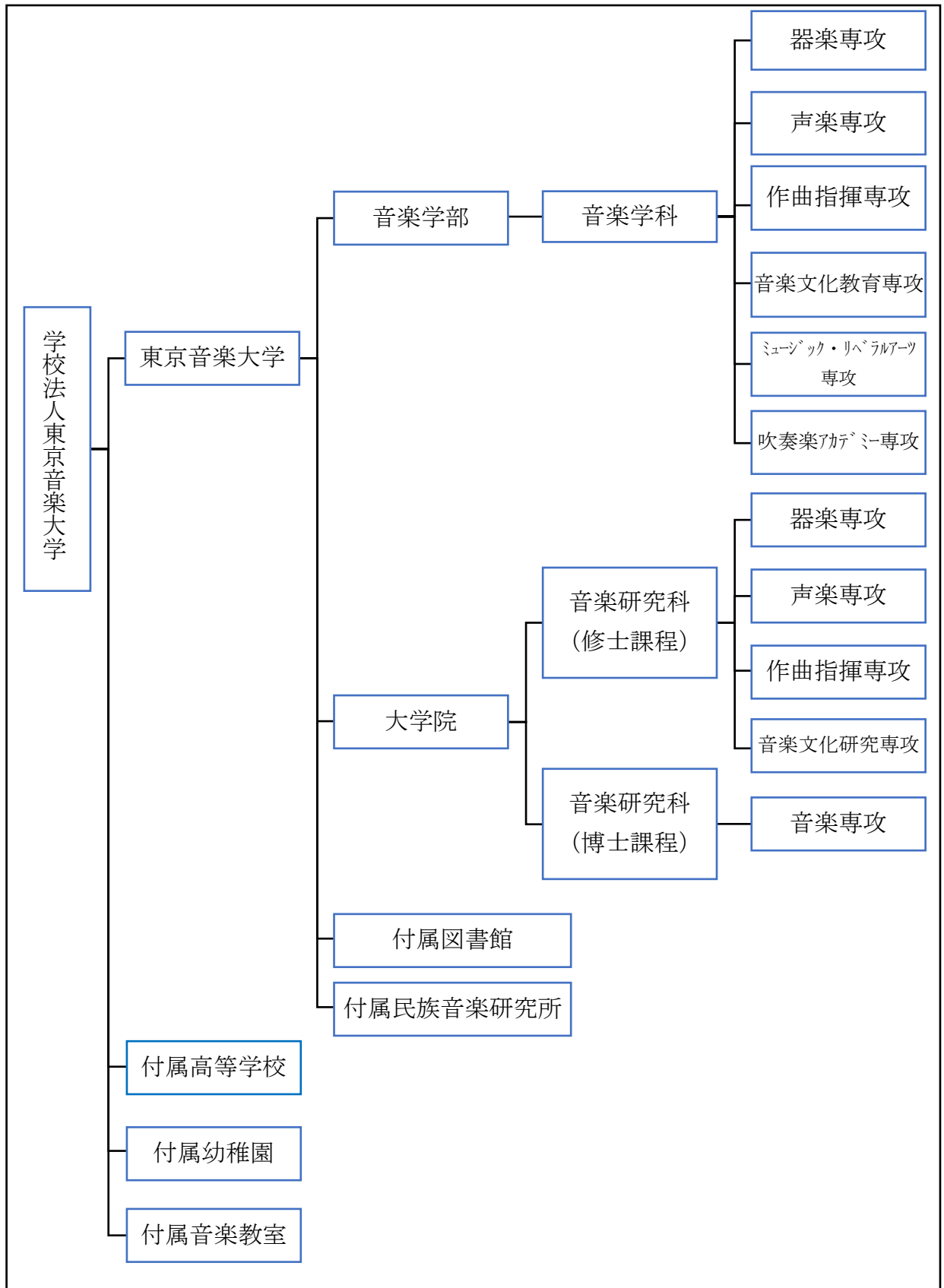
- 2007年(平成19年)5月 創立100周年を迎える
- 2013年(平成25年)10月 東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程設置認可
- 2014年(平成26年)4月 東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程開設
- 2017年(平成29年)4月 東京音楽大学音楽学部音楽学科ミュージック・リベラルアーツ専攻開設
- 2019年(平成31年)4月 中目黒・代官山キャンパス開校
東京音楽大学音楽学部音楽学科吹奏楽アカデミー専攻開設

【令和】

- 2020年(令和2年)4月 東京音楽大学附属高等学校池袋キャンパス開校

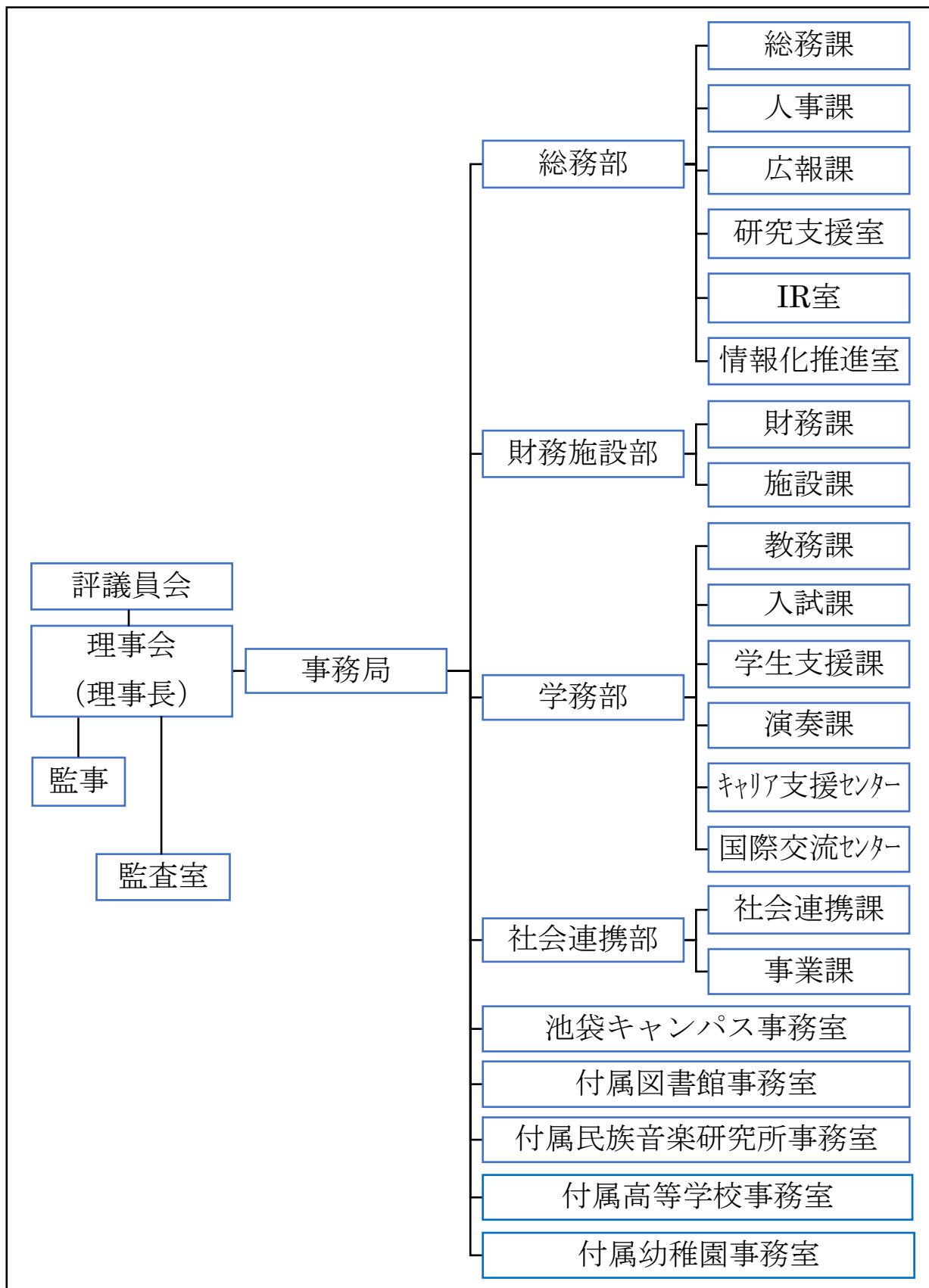
4. 学校組織図(教育・研究組織)

(2021年3月31日現在)



5. 法人・事務組織図

(2021年3月31日現在)



6. 役員・評議員の概要(2021年3月31日現在)

役員	理事長	鈴木 勝利			
	副理事長	丸山恵一郎			
	理事・学長	野島 稔			
	理事	佐々木正峰	高祖 敏明	保倉 裕	
		武石みどり	福島 啓充	永井 義美	
	監事	吉田 恭治	船戸 輝久		

評議員		鈴木 勝利	丸山恵一郎	武石みどり
		加納 里美	西村 朗	大谷 康子
		渡辺 裕	釜洞 祐子	坂崎 則子
		小森 輝彦	岡田 敦子	豊永 聡美
		渡辺 国彦	石井 克典	川上裕美子
		永井 義美	藤田 義明	瀧田 忠彦
		広上 淳一	竹内 聡子	



7. 設置学校の入学定員・収容定員・学生数

(2020年5月1日現在)

○大学

学 部	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
音楽学部音楽学科	310	1,240	1,374	289	1,085
器楽専攻	193	772	888	169	719
声楽専攻	47	188	204	30	174
作曲指揮専攻	23	92	101	57	44
音楽教育専攻 (1年生は音楽文化教育専攻)	20	80	70	15	55
ミュージック・リベラルアーツ専攻	12	48	92	13	79
吹奏楽アカデミー専攻	15	60	19	5	14

○大学院修士課程

研究科	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
音楽研究科	70	140	148	35	113
器楽専攻	36	72	80	22	58
声楽専攻	21	42	36	4	32
作曲指揮専攻	5	10	8	7	1
音楽教育専攻 (1年生は音楽文化研究専攻)	8	16	24	2	22

○大学院博士後期課程

研究科	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
音楽研究科	3	9	18	8	10
音楽専攻	3	9			

○付属高等学校

	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
東京音楽大学付属高等学校	70	210	251	49	202

8. 附属図書館蔵書数

(2020年4月1日現在)

蔵書種類		冊数	冊数小計	
書籍	和書	26,934冊	52,781冊 (内、eBook 609点)	
	洋書	25,847冊		
楽譜		68,820冊	68,820冊	
A V	録音	CD	27,184点	
		レコード	14,749点	
		カセット/その他	705点	
	映像	DVD	2,156点	46,795点
		LD	2,001点	
合計		168,396点		
雑誌	和書	667タイトル	1,113タイトル	
	洋書	446タイトル		



9. 教職員数

(2020年4月1日現在)

	専任						兼任						合計	研究員	事務局	総計
	教授	准教授	講師	研究員	その他	計	客員教授 特任教授 兼任教授 特別招聘教授	客員准教授 兼任准教授	客員講師 特任講師 講師	助教	助手	計				
ピアノ	6	8	7			21	11		47			58	79	6		85
弦	9	1	1			11	13	2	17		1	33	44			44
管・打	4	2				6	6	4	36		6	52	58			58
パ・ロック等									4			4	4			4
邦楽									4			4	4			4
声楽	6	6	11			23	4		29	1	16	50	73	12		85
作曲	5	2	3			10	15	1	19		2	37	47	1		48
指揮	3					3	1		12	4	19	36	39	4		43
ソルフェージュ		2				2	2		9		2	13	15			15
音楽教育	1	2				3	1		6			7	10			10
ミュージック・リハビリ							8		3			11	11			11
吹奏楽 アカデミー	2	1				3	5		16			21	24			24
教職課程	2	3				5	3		8			11	16	1		17
音楽学	4					4			6			6	10			10
外国語	3					3	1		19			20	23			23
教養科目	3	5				8	2		6			8	16			16
事務局															75	75
合計	48	32	22	0		102	72	7	241	5	46	371	473	24	75	572
大学院							3		6			9	9			9
民族音楽 研究所	1			1		2	2	1	5			8	10	4		14
高校			1		10	11			37			37	48		3	51
幼稚園					12	12			2		5	7	19		1	20
音楽 教室									13		2	15	15			15
総計	49	32	23	1	22	127	77	8	304	5	53	447	574	28	79	681

II. 事業の概要

1. はじめに

2020年度の新型コロナウイルス（COVID-19）感染症への対応を巡っては、学校法人東京音楽大学が設置する大学、高校、幼稚園において、入学式をはじめとする式典等の中止、遠隔授業・レッスンの導入、演奏会活動の制限とともに感染症の拡大を防止するための措置を講じてきた。その中で、学生及び教職員の感染症対策を徹底したことで学修機会の確保を進め、教育研究活動や学生の学修成果について、その水準を保証するための取組みを実践してきた。

新型コロナウイルス感染症に留まらず、今日の世界規模の激しい社会変化の中、今後到来する予測困難な時代に学生一人ひとりをいかに責任ある社会の担い手として育成していくかが本学にとって急務の課題である。音楽という特定の専門分野に特化した大学として、次世代の担い手である学生が「何を学び、身につけることができるのか」といった学修の成果を学修者自身が実感できる「学修者本位」の視点から教育の改革を推進してきたところである。このことは、高等教育改革の方向性として、中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」で強調されている「学修者本位の教育の実現」に掲げられ、さらに「教育の質保証」の面において積極的な教育改善が求められ、十分な効果をあげるためには「教学マネジメント」という考え方を重視することが必要とされている。

2020年度事業計画基本方針として掲げた（1）東京音楽大学ビジョンの実現と（2）社会の変化に対応した教育改革は、本学の「教育の質保証」実現のための中核をなす取組みであり、学長のリーダーシップの下、全学的視点から構想することについて検討が進められた。本学がさらに飛躍するため、確固たる財政基盤の構築を図りながら、2020年度において以下に掲げるとおり基本方針の実現を軸とした事業を推進した。

2. 2020年度基本方針の実施

(1) 「東京音楽大学ビジョン」の実現

2019年1月に策定した「東京音楽大学ビジョン」は本学の強みや特色を反映し、社会に対して説明責任を果たしていくものであり、「建学の精神」「教育目的」等を踏まえ、「東京音楽大学ビジョン」の達成を目指すことにより、現時点での「強み」の維持・強化に留まることなく、不断の取組みにより、新たな「強み」を持続的に生み出すこととなる。

2020年度においては、本学の基本的な目標である「東京音楽大学ビジョン」を達成するための施策として教育活動、研究活動、学生支援活動及び地域連携、社会貢献活動等を以下に掲げるとおり展開した。「東京音楽大学ビジョン」に定められているとおり、急激に変化する社会の様々な要請や期待に応えるため、現在明らかになっている課題について改革に取り組んだところである。また、本学中期目標・中期計画については、2021年度をもって第I期（2016～2021年度）が終了するところであり、次期中期計画（2022～2027年度）の策定に着手した。さらに「東京音楽大学ビジョン」を踏まえた今後の成長戦略を具体的計画として明らかにすることで、「音楽文化の新たな地平を拓く」取組みを推進する。

(2) 社会の変化に対応した「教育改革」

2020年度基本方針として掲げた標記改革は、教学マネジメントの確立を目指し、学長のリーダーシップの下、全学的な視点から本学の教育改革を推進するとともに、演奏能力の向上、グローバル人材育成等について意思決定の迅速化と教育改革をより効果的に推進できる体制及び仕組みを検討することにあつた。

また、2020年1月22日の中央教育審議会・第152回大学分科会で承認された「教学マネジメント指針」を文部科学省が公開した。同指針は、教学マネジメント特別委員会における議論を基に教学マネジメントの確立に向けた各大学の真剣な検討と取組みを促す契機とすることを目的として作成されたものである。

2020年度はこのような背景において、本学の教学マネジメントについて学長のリーダーシップの下、全学的視点から検討を進めた。大きく変化する社会環境の中で、本学における教学マネジメントに関する課題と具体的な対処方針を整理し、『教学マネジメントに関する喫緊の課題への対応について』（2020年12月21日日常勤理事会）を策定した。喫緊の課題として、「1、音楽学部に対する学生ニーズの減少傾向にどのように対応するか。」「2、本学における「教育の特色」をどう具現化するか。」「3、「教学マネジメント」をどのように実現していくか。」の三点を掲げ、具体的な対処方針を策定した。カリキュラム改革（制度面からの課題、新設専攻の評価、共通教育の再構、英語教育の充実等）を中心に、今般のコロナ禍又はコロナ禍後の「新たな教育・学修方法」の検討・確立及び教学マネジメント体制の整備について具体的な対処方針内容を定めたところである。

また、教学マネジメントの充実・強化を図るため東京音楽大学教学主任設置規程（令和3年2月26日制定）を整備し、教学主任3名を配置する。2021年4月より教学マネジメントに関する諸課題について体制強化とともに効率的・効果的な取組みを推進する。

(3) 私立学校法改正に対応した積極的取組み

2020年4月1日私立学校法が改正・施行された。今回の改正法では、学校法人の三つの責務規程（運営基盤の強化、教育の質の向上、運営の透明性の確保）が新設された。制度改正として「学校法人の管理運営制度の改善（役員の職務及び責任の明確化等に関する規程整備）」、「事業に関する中期的な計画の作成（認証評価等を踏まえた事業計画及び事業に関する中期的な計画の策定を義務付け）」及び「学校法人の運営の透明性の向上（学校法人としての情報公開の充実）」などが法定化された。本学においても寄附行為の変更申請をはじめ法改正に関連した本学の規程改正を行い、法人経営と学校運営の公共性・透明性を確保の上、2020年度事業を実施した。

今後も社会からの信頼と支援を得て本学が役割を果たし続けるため、自律的で意欲的なガバナンスの改善が必要であることから、学校法人の「公共性」とともに、「自主性」を尊重したガバナンス・コードを持つことに重要な意義があるとの認識の下、自律的な「東京音楽大学ガバナンス・コード」策定について理事会で審議されたところである。ガバナンス・コードについては、本学の長期的な計画、ビジョン及び次期中期計画等との関連性を考慮した上で制定することとしている。

また、今回の改正で事業に関する中期的な計画作成が義務付けられたところである。本学は、2015年度に策定した中期目標・中期計画（2016～2021年度の6年間）に加え「東京音楽大学ビジョン」を大学の基本的な目標と捉え、毎年度事業計画に反映させ、各種の施策を推進してきた。

2020年度は、計画期間6年間の5年目であり、目標計画どおり順調に施策が推移しているかについて、自己点検・評価を実施するとともに、そのデータやエビデンスについて収集・確認を行った。さらに、法改正に係る文部科学省通知によると「中期的な計画は、教学、人事、施設、財務等に関する中期的視点で経営の計画を立てる必要があることや内容については抽象的な計画に留まらないこととされていることから、本学の次期中期計画について、検討及び情報収集を開始したところである。

(4)池袋キャンパスの施設整備計画の推進

池袋キャンパスの再整備については、中目黒・代官山キャンパスとの有機的な連携を図ることを重視し策定した「池袋キャンパス総合整備計画」に基づき進めているところであり、この「池袋キャンパス総合整備計画（第2次）」として学生寮の建設事業に着手し、2021年度中の完成（完成期限2022年2月28日）を予定している。

2020年度は、業者選定、契約手続、新学生寮建設予定地にある本学K館の解体工事及び新築工事着手を行うなど計画どおり順調に進行しており、今後も学生支援のための重要施策として確実に推進する。

また、池袋キャンパス再整備とともに計画している付属高等学校敷地、目白台学生寮及び目白台グラウンドの売却については、2020年度中に決定し、契約手続きを完了している。さらに、志木研修所敷地（埼玉県志木市）についても、評議員会・理事会の議を経て売却を決定するとともに契約手続きを完了した。

3. 中期目標・中期計画及び事業計画に関する活動等

私立学校法の改正により、「自主的にその運営基盤の強化を図るとともに、その設置する私立学校の教育の質の向上及び運営の透明性の確保を図るように努めなければならない（第24条）」と新たに学校法人の責務が規定されるとともに、「事業に関する中期的な計画の作成（第45条の2第2項）」が義務付けられた。また事業計画についても「毎会計年度、予算及び事業計画を作成しなければならない（私立学校法第45条の2第1項）」と規定化されており、同条第3項の規定に従い認証評価の結果を踏まえた中期的な計画、事業計画の策定が求められている。

自己点検・評価が「自らの大学の質の保証」であるとするれば、認証評価は「自己点検・評価の質の保証」である。法改正により、中期計画を中心に「事業計画」、「事業報告」、「自己点検・評価」及び「認証評価」の全てを関連させるPDCAマネジメント・サイクルの確実な実施が求められることとなった。

さらに、私立学校法施行規則改正（第4条の4第4項新設）により、「事業報告書」については、「学校法人の状況に関する重要な事項」をその内容とすることが規定化されるとともに、令和3年2月3日付で文部科学省高等教育局より、「学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令等の施行について」（2文科高第994号）が通知され、事業報告書の参考例が示された。その中で、中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況の項目がが明示されたことにより、本学においても参考例に従い中期計画及び事業計画に関する項目を作成し、以下のとおり報告する。

(1)教育活動

①新型コロナウイルス感染症に伴う対応

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、教学面に関する計画は大幅な見直しを迫られ、日々変化していく状況に対して随時対応に追われることとなったが、ほぼすべての授業科目を開講することができ、学生の学修への影響は可能な限り抑えることができたと考える。

令和2年4月6日付で文部科学省高等教育局長より、「大学等における遠隔授業の実施に当たっての学生の通信環境への配慮について」(2文科高第36号)が通知され、本学においても事務局に「遠隔授業システム実施チーム」を編成し、学事暦を変更するとともに遠隔授業の実施に取り組むこととなった。

また講義系授業の一部については、遠隔による実施が有効であるとの発見もあり、今後も遠隔授業を継続する可能性を検討する。

○学事暦の変更

授業開始を約1か月遅らせ、5月第2週の土曜日から開始し、夏期休暇期間を挟んで、9月第3週末までを春学期授業期間とした。なお、秋学期については春学期終了から5日後の9月第4週後半から開始することで、当初予定通りの学事暦とした。

○遠隔授業の実施

春学期はすべての授業科目を遠隔で実施することとし、学生・教員向けのマニュアルを作成、配布を行った。

音楽大学の学びの中心である実技科目のうち個人レッスン科目については、ビデオ会議アプリや動画共有サービスを通じての遠隔レッスンとして実施した。ピアノを除く副科実技科目は実施せず、個人レッスン以外の実技科目については、動画や資料を配信した上で、課題を課すといった対応を取った。また、講義系授業については授業科目の内容や性質に応じて実施方法をオンデマンド型(動画配信)と同時双方向型(Web会議システム)とに大別し、実施した。これら遠隔授業実施にあたっては、インターネットを通じて学生と教員とが連絡を取り合うことを可能にする授業支援システムを急遽導入することにより、対面授業に相当する教育の質を担保した。

秋学期では講義系授業科目については引き続き遠隔授業で実施する一方、実技系授業科目については十分な感染防止対策の下、対面授業として実施した。ただし感染等に不安を感じる学生に対しては、遠隔レッスンの実施やハイブリッド型(対面と遠隔の併用)授業の実施により、個別に配慮した。また、定期試験については、遠隔授業の場合は授業支援システムを通じて実施し、実技については対面のほか、動画提出による受験を認めた。

②作曲指揮専攻(作曲「ミュージック・メディアコース」)の開設

2021年度から作曲指揮専攻(作曲「ミュージック・メディアコース」)を新設するための準備を行った。

本コースは、音楽をめぐる状況の大きな変化に対応するため、従来の「映画・放送音楽コース」「ポピュラー・インストゥルメンツコース」「ソングライティングコース」の3コースを統合するもので、卒業後、音楽業界で即戦力となるために、商業音楽分野で必要とされる作編曲

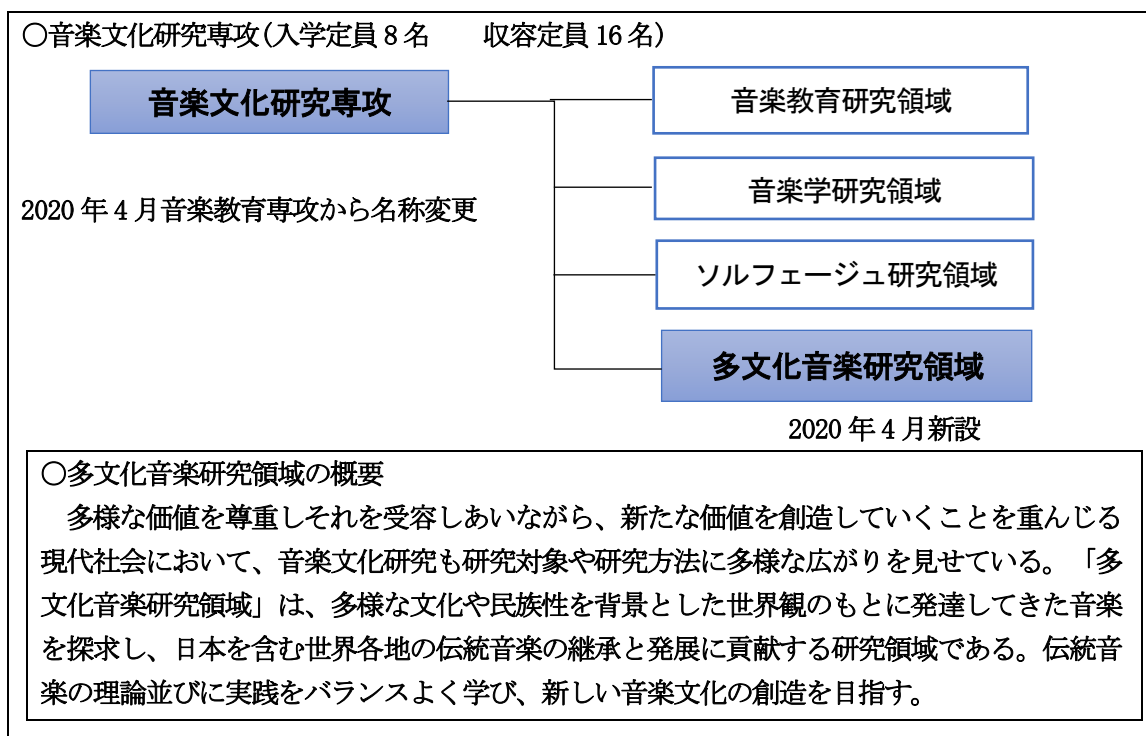
法を基礎から学び、プリプロダクション、スタジオレコーディング、セルフ・プロデュースによるCD制作などを実践しながら、多様化したメディアに対応し、自分の音楽を積極的に世界へ発信できるアイデアと頭脳を併せもつ、時代に対応したセルフ・プロデュース能力のある人材の育成を目指す。(2021年度入学者数：16名)

③大学院教育の充実

○音楽研究科修士課程

2020年4月に音楽教育専攻を「音楽文化研究専攻」と名称変更するとともに、新たに「多文化音楽研究領域」を設置し、8名の入学生を迎え、従来の学際的な教育研究活動の実績を踏まえ、多様性と国際性を重視した学術研究、教育の発展を進めることができた。

2020年度は、慎重な新型コロナウイルス感染症対策を行い、実技レッスンから合唱、オペラの授業に至るまでを実施、最終的にコンサート形式によるオペラ公演、全ての修士演奏試験を行った。



○音楽研究科博士後期課程

2020年度は新たに3名に「博士(音楽)」の学位を授与した。これにより本学は通算14名の博士号取得者を輩出したこととなる。

新型コロナウイルス感染症対策として、博士リサイタル試験及び博士学位審査演奏会については無観客での実施とし、論文審査等ではビデオ会議システムを利用して実施した。

④カリキュラム改革への取組み

『教学マネジメントに関する喫緊の課題への対応について』を受け、特に音楽学部の教養科目・外国語科目を中心としたカリキュラム改革にむけたプロジェクトチームが立ち上がった。

⑤教育改善FDの推進

コロナ禍により、2020年度ファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）委員会の開催は、例年のおよそ半減となる3回となったが、下記の活動を行った。

なお、各種調査については、新型コロナウイルス感染症対策として、従来の用紙ではなく、教学支援システムを利用してネットを通じて実施した。

- ・2020年度春学期学修行動調査（7月末～8月上旬）、結果公表（1月）
- ・FD通信の発行（10月、1月（号外））
- ・授業アンケートの実施（1月末～2月初）
- ・4年生対象2020年度秋学期学修行動調査（3月）

⑥教職課程の充実

新型コロナウイルス感染症の影響から、教育実習の実施期間を3分の2に短縮できるとする文部科学省の特例措置に基づき、25名の学生が実習期間を短縮した。短縮分の補講として、本学付属高等学校や他施設でのボランティア活動を実施した。

令和2年度に限り特例的に行う介護等体験代替措置（文部科学省）に基づき、全学生が訪問体験を実施せず、レポート提出での実施となった。

○介護等体験者数

- ・訪問体験 0人
- ・代替措置（レポート） 174人

○教育実習者数

- ・通常実施 118名
- ・特例措置 25名

○教員免許状授与件数

- ・中学校教諭一種免許状 131件
- ・高等学校教諭一種免許状 135件
- ・中学校教諭専修免許状 26件
- ・高等学校教諭専修免許状 27件

○教員採用試験特別講座及び教員採用者数

教育現場での実務経験豊富な本学教員による教員採用試験特別講座については、コロナ禍の影響もあり、夏期休暇期間中に1回開催することができた。2021年3月31日時点で判明している新卒採用者数は専任12人、期限付き・臨時・非常勤採用25人となっている。

○明星大学通信教育部との教育業務提携(小学校教諭2種免許状取得講座)

本学在学中に明星大学通信教育部科目等履修生として小学校教諭2種免許状の取得を目指す制度について、2017年度4年生では7名が履修し、5名が卒業時に免許を取得した。

2021年度は2年生7人、3年生2人、4年生8人が同制度を履修予定である。

⑦演奏能力向上教育

本学主催演奏会6件(卒業演奏会、シンフォニックウインドアンサンブル定期・特別演奏会、ソロ・室内楽定期演奏会、ピアノ演奏会、弦楽アンサンブル演奏会、オーケストラ定期演奏会)の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、卒業演奏会、シンフォニックウインドアンサンブル定期演奏会は大幅に延期、シンフォニックウインドアンサンブル特別演奏会は中止、ソロ・室内楽定期演奏会は延期公演も中止となった。

また公演は無観客や関係者のみ、または大幅に座席数を減らして実施し、可能なものについてはライブを含め配信を実施した。

○本学主催演奏会

演奏会名 配信 URL	日時	場所	入場者数/ 客席数
卒業演奏会 https://youtu.be/SYuzpQzRCEs	2020年4月10日(金) 19:00開演【延期】	浜離宮朝日ホール	延期のため 動員なし
	2020年10月28日(水) 18:30開演 ※4月10日(金)から延期		73名/552席
シンフォニックウインドアンサンブル 特別演奏会	2020年7月15日(水) 18:30開演【中止】	横浜みなとみらいホ ール大ホール	中止のため動 員なし
シンフォニックウインドアンサンブル第51回 定期演奏会 https://www.youtube.com/watch?v=xIIi0LlKa2Y	2020年7月16日(木) 18:30開演【延期】	東京芸術劇場コンサ ートホール	延期のため動 員なし
	2021年3月18日(木) 18:00開演 ※2020年7月16日(木) から延期	本学A館100周年記念 ホール	265名/806席
ピアノ演奏会 ～ピアノ演奏家コース成績優秀者による～ https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/10057.php	2020年7月25日(土) 13:00開演(I～III部) 【無観客公演】	東京文化会館小ホー ル	無観客公演の ため動員なし
学内オーディション合格者による ソロ・室内楽定期演奏会	2019年9月20日(日) 13:00開演【延期】	本学A館100周年記念 ホール	中止のため動 員なし
	2021年3月5日(金) 13:00開演【中止】 ※2020年9月20日(日) から延期		
弦楽アンサンブル第30回演奏会 https://www.youtube.com/watch?v=QXKvf9mXrhc&t=2s	2020年10月24日(土) 17:00開演	本学 TCMホール	63名/422席
東京音楽大学コンクール優勝者コンサート https://youtu.be/p03YGwcrC_E	2020年10月25日(日) 17:30開演	本学 TCMホール	61名/422席
シンフォニーオーケストラ演奏会 (Aオーケストラ) https://youtu.be/KRKVst9IC0k	2020年11月24日(火) 17:30開演	本学A館100周年記念 ホール	176名/806席
シンフォニーオーケストラ定期演奏会 https://www.youtube.com/watch?v=xpz8v51AV78&feature=youtu.be	2020年12月9日(水) 19:00開演	東京芸術劇場コンサ ートホール	631名 /1999席

○教員コンサート

演奏会名	日時	場所	入場者数／客席数
第13回ピアノ教員によるコンサート	2020年10月3日(土) 17:00開演	本学TCMホール	98名／422席
第11回声楽教員によるコンサート	2020年10月10日(土) 17:00開演	本学A館100周年記念ホール	68名／806席
教員室内楽コンサート	2020年10月18日(日) 15:00開演	本学TCMホール	61名／422席

○その他の演奏会等

演奏会・イベント名	日時	場所	出演
オープンキャンパス 在学生によるウェルカムコンサート	2020年5月23日(土) 【中止】	本学 TCMホール	未定

○第19回 東京音楽大学コンクール

コンクールは、学生の演奏意欲と演奏技術・表現力の向上を目的とし、入賞者を各々の演奏会によって広く世に紹介し、楽壇への登場を促すこととしている。

コロナ禍で演奏会は中止や延期とされることが多かったが、コンクールは本学以外でも実施されており、感染予防対策を万全のうえ実施することを運営委員会でも承認され、予定通り実施することができた。

2020年度は、声楽部門とピアノ部門を対象として実施し、それぞれの部門で5人の入賞者を選び、表彰した。

演奏会名	日時	場所	出場者(結果)
声楽部門・予選	2020年11月9日(月) 12:00開演	本学 TCMホール	27名 (応募32名、失格5名)
声楽部門・本選	2020年11月18日(水) 16:00開演		5名 (第1位～3位各1名、入選2名)
ピアノ部門・予選	2020年11月12日(木) 10:00開演		35名 (応募42名、棄権7名)
ピアノ部門・本選	2020年11月17日(火) 13:00開演		5名 (第1位～3位各1名、入選2名)

⑧大学間単位互換制度及び高大連携の推進

本学は、2020年11月16日に、放送大学と単位互換に関する協定を締結した。本協定は、多様化している学生の将来の進路選択や就職の状況を鑑み、単科大学の枠を超え幅広く柔軟な教育プログラムを提供することを目的としている。2021年4月以降、放送大学で修得した単位は、卒業要件単位として認定される。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、上智大学及び聖心女子大学との単位互換制度は中止となった。また、クラーク記念国際高等学校との高大連携授業については、春学期は遠隔で、秋学期は対面で実施し、34名が受講した。

(2) 研究活動

① 競争的資金の獲得状況

本学においては、競争的資金の獲得拡大に向けた取組みを推進している。競争的資金の獲得を促進するため、継続的に競争的資金情報の迅速な把握及び学内への提供を行った結果、2020年度においては、科学研究費助成事業へ6件、文化庁「大学における文化芸術推進事業」へ1件、一般財団法人カワイサウンド技術・音楽振興財団へ1件、応募申請を行った。2020年度の科学研究費助成事業の状況については、次のとおり。

2020年度科学研究費助成事業

○研究代表者分

研究期間	研究種目	研究代表者	研究課題
2020～2022 年度	基盤研究 (C)	金城 厚 (教授)	琉球王国の儀礼芸能の再現に関する芸能史的研究
2020～2023 年度	基盤研究 (C)	藤田 茂 (教授)	現代音楽のフォルムの想像力：メシアン・デュティユー・ブーレーズの言説と草稿の検証
2020～2023 年度	若手研究	早坂 牧子 (講師)	三浦環の歌：録音と演奏評分析による20世紀初期日本人声楽家の歌唱スタイル考察
2018～2021 年度	基盤研究 (C)	小日向 英俊 (客員教授)	在日インド系コミュニティの音楽とその動態
2018～2020 年度	基盤研究 (C)	武石 みどり (教授)	明治～昭和初期の洋楽受容の諸相—演奏の場・人・曲目・ジャンル・メディア
2017～2021 年度	若手研究 (B)	福田 裕美 (准教授)	民俗芸能公演をめぐるアートマネジメントの基礎的研究—伝承と創造の観点から
2017～2020 年度	基盤研究 (C)	金城 厚 (教授)	民謡現地調査録音資料のアーカイブ化と公開活用の方法

○研究分担者分

研究期間	研究種目	研究分担者	研究課題	研究代表機関
2019～2022 年度	基盤研究 (B)	小日向 英俊 (客員教授)	独立後のインド音楽世界を文化 資源化する知の統合研究	京都教育大学教育学部 田中多佳子教授
2019～2020 年度	挑戦的研究 (萌芽)	千葉 伸彦 (講師)	日本における民俗音楽歌唱の生 理学的研究	北海道医療大学リハビリテ ーション科学部 榊原健一准教授
2018～2022 年度	基盤研究 (B)	渡辺 裕 (教授)	20 世紀前半のヴァイオリン演奏 様式の包括的研究 —野澤コレクションを活用して—	東京藝術大学音楽学部 大角欣矢教授
2018～2022 年度	基盤研究 (B)	鈴木 信五 (教授)	ロマンス諸語におけるテンス・ アスペクト・モダリティ・エビ デンシャルティの対照研究	九州大学大学院言語文化研 究院 山村ひろみ教授
2018～2021 年度	基盤研究 (C)	加藤 富美子 (客員教授)	日本伝統音楽と民族音楽を位置 付けた学習理論構築と実践開発 —小泉文夫の理論を軸に—	広島大学大学院教育学研究科 権藤敦子教授
2018～2021 年度	基盤研究 (C)	荒尾 岳児 (准教授)	教師教育における美的教育プロ グラム —協同表現の教育の授業構成—	東洋大学文学部 桂直美教授

②文化庁「大学における文化芸術推進事業」

文化庁の実施する「令和2年度大学における文化芸術推進事業」は、大学の有する教員、教育研究機能、施設・資料等の資源を積極的に活用したアートマネジメント（文化芸術経営）人材の養成プログラムの開発・実施を補助し、開発されたプログラムを広く他大学等に周知・普及させることで、我が国の文化芸術の振興を図ることを目的としている。

本学からは、『日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成～「伝統×伝統」、「伝統×現代」、「伝統×地域」のクロスオーバーによる新たな価値の創出を目指して～』を要望事業として申請し、2020年3月2日付で「採択」された。

2020年度は、「伝統×現代」をテーマに、伝統の枠に捉われない現代的な公演形態や新たな作品創作の開拓を含む公演等を企画・運営するためのマネジメント人材育成プログラムを開発することとして、本学付属民族音楽研究所を事業推進母体とし、国内外の関係機関との連携を図りながら、以下の通り事業を展開した。

文化庁「令和2年度 大学における文化芸術推進事業」

講座名・実施日・講座概要	講座内容
<p>I 基礎講座</p> <p>○8月8日(土) 現代舞台講座 文化施設における現代的な演出・舞台技術やプログラムの展開を学ぶ。</p> <p>○8月8日(土) 現代運営講座 現代社会において求められる機能を理解し、それに即した多様な運営体制の構築を学ぶ。</p> <p>○8月22日(土) 創作表現講座 伝統音楽を素材にした現代的な創作や演奏の事例や技法について学ぶ。</p>	<p>1. 伝統を踏まえた邦楽公演の新しい見せ方 町田龍一(公益財団法人日本製鉄文化財団(紀尾井ホール)前常務理事)</p> <p>2. 公立ホールにおける邦楽公演の実例 本田恵介(公益財団法人熊本県立劇場理事/参与)</p> <p>3. 地域に根差す劇場の伝統芸能支援～継承と創造～ 木原義博(島根県芸術文化センター「グラントワ」いわみ芸術劇場館長)</p> <p>4. 舞台の撮影・これからの時代の動画配信 姫田蘭(映像制作ディレクター/カメラマン・一般社団法人民族文化映像研究所理事)</p> <p>1. 創造的な復興と地域フェスティバルの設計図～現代の視点で芸能の魅力を引き出すために～ 坂田雄平(宮古市民文化会館 館長補佐 / プロデューサー)</p> <p>2. 文化をつなぐ博物館～墓場からステージへ～ 浜松市楽器博物館の実践 嶋和彦(浜松市楽器博物館 前館長)</p> <p>3. 国立民族学博物館における芸能の映像記録作成と活用 福岡正太(国立民族学博物館 教授)</p> <p>4. 「舞台公演」と著作権について～実演家の権利を中心に～ 君塚陽介(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会実演家著作権隣接権センター(CPRA) 著作権隣接権総合研究所法制広報部)</p> <p>1. ジャワガムラン創作～現地・海外・東京の事例紹介～ 樋口なみ(ガムラン奏者・本学講師)</p> <p>2. 能と現代音楽 青木涼子(能声楽家)</p> <p>3. 箏によるさまざまな音楽活動～アウトリーチや洋楽器とのコラボレーションを通して 片岡リサ(箏奏者・大阪音楽大学特任准教授)</p>

<p>II 実践セミナー</p> <p>○企画 A “未来のアジア芸能”をつくる～ステージの表現 9月13日(日)、20日(日)、26日(土)、10月4日(日)</p> <p>○企画 B-1 オンライン芸能村—日本とアジアの芸能ネットワークづくり 9月12日(土)、19日(土)、26日(土)、10月3日(土)</p> <p>○企画 B-2 箏をめぐる現代～オンラインで魅せる楽器の力 9月5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土)</p>	<p>講師：松田正弘(浄るりシアター館長) 木村佳代(ガムラン奏者・本学講師) 樋口なみ(ガムラン奏者・本学講師)</p> <p>講師：神野知恵(国立民族学博物館 機関研究員) 姫田蘭(映像制作ディレクター / カメラマン・一般社団法人民族文化映像研究所 理事)</p> <p>講師：Dual KOTO×KOTO(箏デュオ/梶ヶ野亜生、山野安珠美) 滝田美智子(箏曲演奏家・本学客員教授) 姫田蘭(映像制作ディレクター / カメラマン・一般社団法人民族文化映像研究所 理事)</p>
<p>III 企画制作研修</p> <p>○企画 A “未来のアジア芸能”をつくる 10月31日(土)、11月28日(土)、12月26日(土)、1月11日(月・祝)</p> <p>○企画 B-1 オンライン芸能村 1月9日(土)、16日(土)、23日(土)</p> <p>○企画 B-2 箏をめぐる現代～オンラインで魅せる楽器の力 10月3日(土)、24日(土)、1月9日(土)、16日(土)、23日(土)</p>	<p>「アジア芸能の未来」公演の企画制作 (注) 1月11日の公演本番は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う措置のため中止。</p> <p>「オンライン芸能村の年迎え祭り」動画の企画制作・オンライン配信</p> <p>「箏をめぐる現代(いま)～オンラインで魅せる楽器の力」動画の企画制作・オンライン配信</p>

③ 研究活動の活性化及び研究実施体制の強化

本学における研究活動の活性化及び研究実施体制の強化を目的として、以下の規程を制定した。

- 「東京音楽大学における日本学術振興会特別研究員受入規程」
- 「東京音楽大学共同研究員受入規程」

共同研究員は、国内外の学術研究者又は学識経験者との交流を実践的に行うことによって、本学の学術の進展に寄与することを目的とするもので、2021年4月より本学付属民族音楽研究

所等に4名の共同研究員受入れを予定している。

④研究支援体制

科学研究費補助金等の競争的研究資金の獲得は、本学及び附属民族音楽研究所の評価向上に資することから、研究支援室の体制強化を図り、適切な運営・管理の下、公正で健全な研究環境の展開を図った。また、適切な研究費の管理や研究活動の適正化を目的として、「令和2年度研究不正防止ハンドブック」を作成した。ハンドブックは、研究者及び事務職員に配付し、本学における研究倫理の確立と厳正な運用に活用している。

(3) 学生支援活動

①新型コロナウイルス感染症に伴う対応

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、多くの業務においてイレギュラーな対応を余儀なくされた。入学式の中止により、例年式終了後に行っていた学生証の授受は、新入生・在校生ガイダンスの資料や学生便覧などと共に郵送により配布されることとなった。ガイダンスと並行して行われる予定であった新入生および在学生の健康診断も延期され、9月21日と22日の祝日に検査項目を必要最小限に削減し、感染予防対策を講じたうえで実施した。地方の実家で自粛期間を過ごす学生やその家族の中には、東京に戻ることを恐れる者も多かったため、近隣の病院などで健康診断を受診した者については、受診費用の一部を助成する措置をとった。また、例年は日本学生支援機構(JASSO)の適格認定手続きについての説明会を行っていたが、対面で説明会を実施することが出来ないため、説明会の内容を文書化して資料と共に郵送したり、JASSOの説明動画を確認させたりし、学生が作成した書類を返送させて確認し、修正などある場合は再度郵送して指導を行うことで手続きを進めたが、やはり説明会が行えなかったことにより、例年に比べて書類の不備が多く、手続き支援にはかなりの手間と時間を費やした。

②学生支援活動の充実

○大規模自然災害被災学生支援

本学制定の「大規模自然災害罹災学生授業料減免に関する規程」に従い、熊本地震(平成28年4月14日発生)、西日本豪雨(平成30年6月28日～7月8日発生)により実家が被災した学生(学士課程2名)に対して、継続申請に基づき現状をヒアリングし、授業料減免の経済的支援を継続した。また、台風19号(令和元年10月発生)により実家が被災した学生(学士課程1名)に対して、新規申請に基づき面談を実施し、授業料減免の経済的支援を行った。2020年度の支援実績は以下のとおり。

災害の名称	学部生(状況)	大学院生(状況)	合計
熊本地震	1人 (全壊)	0人	1人
西日本豪雨	1人 (全壊)	0人	1人
台風19号(令和元年)	1人 (半壊)	0人	1人

○経済的支援奨学金・授業料減免

(ア) 東京音楽大学入学奨学金

2020年1月29日に制定された「入学奨学金規程」に基づいて学生に公募をし、理事会審議を経て、出願者の中から学士課程2020年度新入生18名、修士課程2020年度新入生4名を選考し、入学奨学金を給付した。

(イ) 東京音楽大学家計急変者奨学金

2020年4月1日に制定された「家計急変者奨学金規程」に基づき、出願状況を理事会にて審議をし、規程の出願資格を満たす次の学生に対して家計急変者奨学金を給付した。

種類	学部生	修士課程	計
第Ⅰ区分相当	1	1	2
第Ⅱ区分相当	0	0	0
第Ⅲ区分相当	1	0	1

(ウ) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う家計急変者への授業料減免特例措置

2020年10月1日に制定された「新型コロナウイルス感染拡大に伴う家計急変者への令和2年度授業料減免の特例措置に関する規程」に基づいて学生に公募をし、理事会審議を経て、規程の申請資格を満たす学部生16名に対して10万円の授業料減免を実施した。

○給付型奨学金制度の充実

学業成績が特に優秀な学生・生徒および音楽活動に極めて優秀な成績を修めた者を対象に奨学金制度を実施しており、2020年度は66名を奨学生として褒賞した。褒賞実績は次のとおり。

		奨学生数					計
		博士	修士	学部	高校	科目等履修生	
特別特待奨学生			1	2	6	3	12
給費奨学生	准特別	2	1	4			7
	甲種	3	9	29			41
給費入学奨学生	甲種				1		1
	乙種				1		1
特待奨学生	甲種				1		1
	乙種				3		3
計		5	11	35	12	3	66

○遠隔授業環境整備奨学金

新型コロナウイルス感染症の影響による遠隔授業及び遠隔レッスンの実施に伴い、学生の自宅のネットワーク環境整備にかかる費用負担を軽減するため、「遠隔授業環境整備奨学金」として学部生及び大学院生を対象に一律 10 万円を、科目等履修生を対象に一律 5 万円を給付した。この取組みに対し、日本学生支援機構より「新型コロナウイルス感染症対策助成金」80 万円が支給された。

○高等教育修学支援新制度への対応

本制度は 2020 年度より開始され、2019 年度の予約採用に引き続き在学採用を実施したところ、70 人の学生が採用された。新型コロナウイルス感染症の影響により対面で説明会を実施することが出来なかったため、詳しい説明資料を作成し、郵送での申請を受け付けた。保護者・学生からの問合せへの対応や財務課との連絡・調整を適宜行った。

○学生支援体制の強化

(ア) 学生相談室

2020 年度の利用者実数は 50 名(学生・保護者・教職員を含む)、延べ 512 件の面談を行った。コロナ禍のため面談はリモートや電話により実施するとともに、学生相談室公式 Twitter の運用を開始し、コロナ禍においても学生の心身の健康が保たれるよう、メンタルヘルスに関する情報や外部支援機関の案内、カウンセラーからのメッセージ等を発信するなど間接的なサポートを行った。例年行っていた UPI 調査(University Personality Inventory)は行えなかったが、こころとからだの健康アンケート(イレギュラーな状況下において学生個別の意思を尊重するため任意)を Google フォームにより実施(回収率 64.4%)、サポートが必要な学生を見極め、問題が深刻化する前に支援に繋げるため、「相談を希望する・迷っている」と回答した学生のうち連絡先の記入があった 26 名にメールにて呼びかけを行った。また、面談の中で訴えられたハラスメント等に対しては、学生支援課・学生委員会・教員・大学事務局との連携・協力により改善を促す取り組みを行った。

(イ) 医務室

中目黒・池袋両キャンパス医務室共に看護師 1 名ずつの体制とし、外部医療機関との連携が難しくなる 17 時以降開室を継続することのリスク増を考慮して、開室時間を短縮(中目黒 9-17・池袋 9.5-17.5)した。成子クリニック(学校医)や中目黒東京共済病院との連携強化により支援体制の持続を図った。医務室の看護師不在時に必要となる緊急対応マニュアルを作成し、対応備品と共に守衛室に常設を依頼した。学生からの健康相談や低体重者への通知、生活・栄養指導・合併症予防の注意喚起を行うほか、様々な問題に対しては学生支援課・学生相談室・学生委員会との連携により早急に必要な支援に結び付ける対応を行った。教職員からの心身の健康に関する相談にも適切な対応を行った。2020 年度利用者数は 1641 名であった。

(ウ) 障がいを持つ学生の支援

池袋キャンパスへの付属高校移転に伴いJ館およびB館入口付近の改修工事が行われたため、視覚障がい学生2名(全盲)に対して、変更が生じた場所と学生から要望があったA館(地下、3・4階練習室等)の歩行練習を改めて行った。その他、必要に応じて学内移動時の誘導やイベント時の学内案内掲示物配置箇所の告知、点字プリンターの用紙交換などを行った。中目黒・代官山キャンパス2階のクリエイティブラボに設置した点字プリンター・読み上げ機能付きPC・スキャナー等の支援機器の使用手順や作動の確認を障がい学生立ち合いのもとで行った。

(エ) 留学生支援の充実

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の為、海外に帰国して、日本に戻ってこられない留学生についての状況確認をメール等で行い、帰国先の現状把握や日本の状況及び大学の対応についての情報提供を行った。

(オ) 学生寮

新型コロナウイルス感染拡大のため新入寮生ガイダンスは中止となり、「女子学生寮 寮則」「寮生活の心得」をはじめとする資料は郵送された。2019年度の2月29日に帰省勧告を出し、予定されていた入寮・帰寮日を秋学期開始に備えて8月31日まで延長し、その間の寮費・食費は請求しないこととした。欠食届や帰省・外泊届、特別滞在申請をスマートフォン等で行うシステムを新たに導入した。2021年度の現目白台学生寮の新規入寮者数は44名、そのうち8名は2021年度1年間限定の入寮とした。

○2020年度事業概要

事業名	実施時期	場所	事業内容
学生定期健康診断	9月	池袋	例年4月のガイダンス時に行っていた学生定期健康診断は新型コロナウイルス感染症の影響により9/21・22の休日を利用して実施、1490人が受診した。2020年度の実施率は92.8%であった。
新入生・在学生ガイダンス	4月	池袋	例年4月初頭に行っていた新入生・在学生ガイダンスは新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて対面で実施することができず、資料送付により行われた。
入学試験における学生誘導員管理	11月～3月	中目黒・池袋	学生誘導員募集・選定・配置およびローテーション編成・事前説明会・勤務状況確認・監督を行い円滑な入試実施に貢献させた。コロナ禍のため中止された基礎試験等があったため、今年度の誘導員業務は例年の半分程度と減少している。
教室・練習室貸出および予約の管理	通年	中目黒・池袋	練習室予約・管理システムCRMのカスタマイズし、スマートフォンでも使用しやすいよう修正を行った。コロナ禍の状況に応じて使用禁止や貸出の際の部屋割りや人数制限等を随時検討し適切な管理・運用を行った。

池袋キャンパス 医務室 中目黒キャンパス 医務室	通年	中目黒 ・池袋	両キャンパス担当が課内ミーティング(週1回)に参加し情報交換・検討事項を協議、学生情報共有、緊急時の連携を検討・実行した。
池袋 学生相談室 中目黒 学生相談室	通年	中目黒 ・池袋	春学期の自粛期間から授業再開まではリモートにより学生面談を実施、カウンセラー勤務状況・報告書確認、緊急時の連携を適正に行った。
学生委員会	通年	中目黒	学生からの相談を受け、管打楽器における専攻内ルールに関する問題について検討し、管打部会に改善の要請を行った。
目白台学生寮	通年	中目黒	新型コロナウイルス感染症対応のため、夏休み終了まで入寮を制限した。新入寮生ガイダンスは新型コロナウイルス感染症予防のため中止とし、資料郵送の形をとった。秋学期の授業・レッスンの再開に備え寮における感染防止策を検討、対策ガイドラインを作成し、寮生への指導・注意喚起を行った。秋学期以降は講習会・オープンキャンパスでの寮説明会および、寮会計処理、寮生・寮生会との面談・指導を的確に行った。
芸術祭における実行 委員への指導・監督	通年	中目黒 ・池袋	コロナ禍により例年のような各種イベントや模擬店による飲食の提供は行えないため、演奏会のみで開催とした。演奏会における感染予防対策・準備・開催・後片付等の指導・監督を適正に行った。
後援会	通年	中目黒	役員会での情報交換、各助成金制度(コンクール・校友会支部演奏会・演奏会支援)の申請受付・取纏め・役員会への申請、学生自治会懇談会準備、後援会からの質問事項への返答等を行った。コロナ禍のためコンクール助成・演奏会助成とも例年より大幅に減少した。
奨学金委員会	通年	中目黒	奨学金委員会開催・準備・連絡・および適切な奨学生選定のための資料作成、委員会記録・事務処理・奨学生への通知を行うほか、今年度より特別特待奨学生(付属高校を含む)の事務手続きも担当することになった。
日本学生支援機構 奨学金申請学生対応	通年	中目黒 ・池袋	コロナ禍のため説明会開催ができず、資料の郵送と説明動画により説明を行い、手続書類の郵送によるやり取りで指導・確認を行った。学生および日本学生支援機構側との連絡・事務手続を適正に滞りなく処理した。
外部特定財団からの 奨学生募集への対応	通年	中目黒 ・池袋	特定財団の奨学生募集に対し、公募・候補者選定・推薦状作成依頼を行い、奨学金委員会における審議を経て公正な奨学生を選出し、各財団への申請を行った。

留学生対応	通年	中目黒 ・池袋	コロナ禍のため帰国先から日本に戻れないの留学生へ連絡をとり、状況の確認や情報提供を行った。留学生の寮生からの要請により寮室内の荷物を留め置くことを認めた。
休学・退学を希望する学生への対応	通年	中目黒 ・池袋	休学・退学希望者との面談において、理由の詳細を聞き取り、解決し得る問題点の有無を精査、問題解消への助言を行ったうえで、やむを得ないと判断した場合に休学・退学届用紙を渡した。
卒業式・入学式 代表学生への指導	3月～4月	中目黒 ・池袋	代表学生指導(答辞・歓迎の辞)は行ったが、入学式は中止された。卒業式は父兄の入場は受け付けず、時間短縮、座席を1つ空けての着座、入退場の分散誘導等、感染予防に充分配慮して行った。

③キャリア支援

○求人システムの積極的活用

キャリア支援センター主催のイベント・届出において、WEB 求人システム「TCM JOB Search」を経由し申し込む形態とし、キャリア支援センターの情報の一元化を図った。これにより、学生の申請手続きが簡便化したことに加え、キャリア支援センターでの学生動向把握がリアルタイムで行えるようになった。

また、「TCM JOB Search」の利用ユニークユーザ数の年間累積目標を 2019 年度程度の 2500 名とし、認知度向上を目指し取り組んだ結果、2020 年度利用ユニークユーザ数は累積で 5169 名と、大幅に目標を上回り、キャリア支援センターの認知度向上の一助となった。

○進路に関する情報リソースの開放

キャリア支援センターにスタッフが常駐することで、開室中はいつでも学生が立ち寄れる環境整備を行った。進路に関する関連書籍閲覧のほか、職業適性診断ソフト、日経新聞電子版の室内利用を無料とした。また、遠隔でも利用できる WEB 版就活支援 BOOK や、オンデマンド動画配信も実装した。

○グループ指導の導入

学生が自ら作文に取り掛かれるよう、エントリーシート作成のための講座を、7月～2月にかけて随時対面・Zoom で開講し、個別指導だけでは対応しきれない部分をカバーした。

○就活に向けての行動計画の提示と関連するイベントの開催

7月の進路ガイダンスでインターンシップと夏休み以降に取り掛かるべきことを提示し、その時期に対応する形で各種講座を開講した。また、学部3年・修士1年全員に面談(94名)を実施し、学生の動向の把握だけでなく、個人別の基礎情報を得ながら進路指導することができた。

2022年度卒業予定者のうち145名と面談、2021年度卒業予定者のうち72名と面談を行った。

○早期の企業研究機会の導入

年々、採用時期が早期化・分散化する傾向にあるため、本学においても就活解禁時期より早い時期から企業と接触し、学生の企業理解を深められる機会を数多く設ける取組みを図った。特に、企業理解が進みにくいBtoB企業にも協力いただき、全学年の学生を対象に参加可能となるよう実施した。

○2020年度事業概要

事業名	実施時期	場所	事業内容
インターンシップ ガイダンス	6月	オンライン	全学年の学生を対象に、インターンシップの参加における心構え、準備等について説明した。参加学生数：84名
進路ガイダンス	7月 ・2月	オンライン	2022年度卒の学生を対象に、進路決定のためのスケジュールや、キャリア支援センターで開講する講座等の活用法を紹介。 7月参加者数（全学年対象）：56名 2月参加者数（3学年対象）：35名
学部3年・修士1年 次全員面談	9～12月	キャリア支援センターまたはオンライン	2022年度卒の学生を対象に、進路についての検討状況を面談において把握した。 対応人数：94名
音楽関連の企業と 仕事講座	11月	オンライン	全学年の学生を対象に、音楽関連業界や企業、レコード会社・著作権管理事業者・ゲーム会社・楽器メーカー等の仕事について説明。参加人数：50名
業界研究会	10月～12月	オンライン	全学年の学生を対象に、幅広い業界の企業人事担当者に協力いただき、当該企業を例に業界や事業内容、職種について学ぶ機会とした。 参加企業数：16社、参加学生数：136名（のべ人数）
グループディスカッション ・面接対策講座	12月	オンラインおよび教室	2022年卒の学生を対象に、就職の選考で行われるZoomのグループディスカッションおよび面接対策講座、対面による各模擬対策講座を開講した。参加学生数：15名（のべ人数）
フリーランス 支援講座	1月	オンラインまたは教室	卒業後フリーランスを希望する者を対象として、税理士による確定申告・フリーランス講座を開催。 参加者数：119名（2コマのべ人数）
先輩の就職を聞く会 （内定者報告会）	1月	オンラインまたは教室	学部3年次以下の学年を対象に、今年度進路が決定した学生による活動報告を聞き、学生の就職活動の参考とさせた。 参加者数：27名（計4回のべ人数）
企業説明会	3月	オンライン	2022年卒の学生を対象に、当年度採用意欲のある企業人事担当者より、事業内容や選考方法について説明いただいた。 参加企業数：14社、参加学生数：216名（のべ人数）
個別 カウンセリング	通年	キャリア支援センター	個別性の高い相談内容について、1回40分の対面個別カウンセリングで対応。オンラインでの面談も可とした。 対応件数：458件

グループ指導	通年	キャリア 支援センター	2022年卒の学生を対象に、「自己理解」「学生時代に力を入れたこと」「志望理由」について、グループ指導を行った。 開催回数：計34回、参加者数：79名（のべ人数）
--------	----	----------------	--

(4)入試・広報活動

①入試実施体制の強化

○入試出願システム導入および受験講習会システムのリプレイス

紙媒体と手作業中心の入試業務に出願システムを導入。作業効率の改善を図った。受験講習会申込システムにWeb出願システムを応用し、受講者データと出願者データを連動できるようにした。

○入学試験および受験講習会における新型コロナウイルス感染症対策

対面実技試験やレッスンを受けるに当たり、受験（講）生及び教員がウイルス感染せぬよう受験（講）前の健康チェック、入館時の体温測定、試験会場及びレッスン・練習室の消毒手順等について取り決め、来学者への感染対策を徹底した。本学キャンパスへの来場に懸念を抱く受験（講）生のために、「非対面式」受験（講）ができるよう体制を整えた。

○入学試験の実施

入学試験	期日
音楽文化教育専攻総合型選抜	10月15日(日)
吹奏楽アカデミー専攻総合型選抜	11月22日(日)
特別特待生総合型選抜(ピアノ演奏家コース)	11月29日(日)
器楽専攻優秀者総合型選抜	11月29日(日)
ミュージック・リベラルアーツ専攻総合型選抜	11月28日(土)～29日(日)
外国人留学生選抜	11月29日(日)
学校推薦型選抜(指定校制)	11月29日(日)
音楽文化教育専攻学校推薦型選抜(公募制)	提出物のみによる評価
大学入試センター共通テスト	1月16日(土)～17日(日)
一般選抜(A日程)	2月16日(火)～20日(土)
一般選抜(B日程)	3月20日(土)～21日(日)
大学院修士課程入試	11月19日(木)～21日(土)
大学院博士課程入試	2月20日(土)～22日(月)
大学院科目等履修生入試	2月20日(土)～22日(月)

②入試広報活動の充実

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置等により、例年行っている学生募集活動が実施できず、2021年度の入学者数の減少が心配される中、その時その時に出来る入学支援業務を考慮し、活動を行った。

入学支援の主な業務である大学見学者への対応は、団体での来学予定が全てキャンセルとな

ったため、個人見学者の受け入れだけを8月の夏期受験講習会後から再開した。

2019年度の個人見学者数206名に対して、2020年度は140名だったが、高校3年生の数だけを見ると、2019年度は82名、2020年度は75名で、受験生にとってはコロナ禍であっても進学先を決定するために参加する大学見学、重要なイベントであることがわかる。

見学者の中の学部受験対象者数は48名で、本学を受験した者36名（合格者35名）、入学した者が27名で、入学辞退者は8名だった。さらに、2019年度に高校2年次で大学見学に参加した20名が本学を受験したかを調査したところ、7名受験、13名未受験という結果だった。この結果により、いかに3年生の心を掴むかが、受験生確保の重要なポイントとなり、3年生に向けての受験イベントなどを開催することは、無駄ではないことがわかる。

また、コロナ禍であったため、本学が出向いて行う大学説明会、本学教員による公開レッスン・講義などは、高校から依頼のあった8校のみ参加し実施した。対象学年が3年生とは限らないため、すぐに受験生確保といった結果には結びつかないが、本学より高校に出向くことで、その高校の環境や教育現場を見分することのできる機会となったため、参加した成果は得られた。

この他、本学ホームページを入口とした《電話またはメールでお答えする個別相談》を8月より開始し、入試や授業内容、大学生活等についてのメール相談が53件あり、それぞれの担当部署と連携して丁寧な対応を行った。

③戦略的広報の展開

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生募集活動のメインとして継続してきた春のオープンキャンパスを開催できなかったが、ホームページに受験生に役立つ情報を集めた「受験生応援ページ」を作成し、オンライン型のオープンキャンパスを実施するなど、新しい形の学生募集を展開した。

○オープンキャンパス

ホームページ内に「受験生応援ページ」を作成して情報を発信し続けた。また8月から12月にかけてオンライン型のオープンキャンパスを4回実施し、Zoomによる双方向型のプログラムも組み込んだ。10月に来校型のオープンキャンパスを中目黒・代官山キャンパスと池袋キャンパスで同時開催し、当日の様子映像を後日公開した。

○ホームページ

広報誌であった「東京音大ジャーナル」の作成を中止して、広報の重心をホームページに移し、ホームページ内のコンテンツの充実を図った。2020年度は、コロナ禍で登校できなかった新入生のフォローも兼ねて在学生からのメッセージの発信に特に力を注いだ。また、ホームページの操作性のさらなる向上を目指して、トップページのリニューアルを行った。

○Twitterの運用

Twitterは週2～3回のペースの投稿を継続し、2020年度は650人の新規フォロワーを獲得した。次なるステップではフォロワー同士のコミュニティの形成や、利用者とコミュニケーションの構築を目指す。

(5)国際化

①国際交流活動

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、短期留学や官民協働で行われている留学奨学金制度「トビタテ！留学 JAPAN」等の国際的な交流はすべて中止となった。

短期留学は学生を派遣することが目的であるが、2020年度は中止に伴いオンラインレッスンを提供し、以下のとおり実施した。

- ハノーファー音楽大学：ピアノ1名
- リスト音楽院：ピアノ1名
- ギルドホール音楽院：ピアノ3名、声楽2名、ヴァイオリン2名

②国際交流協定機関

2020年12月18日、ウィーン国立音楽大学のシッチ（Sych）学長、同大学マイスル副学長、本学野島稔学長の署名が揃い、両大学間の教育研究連携に関する学術協定覚書を締結した。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、調印式は行わず、協定書を郵送する形で行われた。

本協定の始まりは、互いが互いを訪問し合う事から発展している。2019年ヨーロッパ研修旅行が行われ、ウィーンにて、3月14・16日の2日間に渡り同大学のクユムジャン教授、モーザー教授のレッスンを研修旅行参加者の23名が受講し、大変好評であった。また、同時に本学岡田教授及び崎谷国際交流センター事務長がウィーン国立音楽大学学長を訪問し、同年9月には同大学のクユムジャン教授、マイスル副学長が本学を訪問され、野島学長、鈴木理事長、野本副学長、岡田教授、渡辺教授と交流を図った。

本協定は、両大学の教育・文化研究の質の向上を目的としており、協定を締結したことにより、双方の学生及び教員、研究等、今後さらに意義のある両大学の交流が期待される。

○国際交流協定機関

協定機関	国・都市名
・ウィーン国立音楽大学（2020年度）	オーストリア／ウィーン
・インドネシア国立芸術大学スラカルタ校	インドネシア／スラカルタ
・モスクワ音楽院	モスクワ／ロシア
・シベリウス・アカデミー	フィンランド／ヘルシンキ
・リスト音楽院	ハンガリー／ブダペスト
・ショパン音楽大学	ポーランド／ワルシャワ
・ハノーファー音楽・演劇・メディア大学	ドイツ／ハノーファー
・ザルツブルク・モーツァルテウム大学	オーストリア／ザルツブルク
・ローマ・サンタチェチーリア音楽院	イタリア／ローマ
・リセウ高等音楽院	スペイン／バルセロナ
・ギルドホール音楽院	イギリス／ロンドン
・ロイヤル・バーミンガム音楽院	イギリス／バーミンガム
・西安音楽院	西安／中国

(6) 地域連携・社会貢献活動

① 地域連携活動

○ 上目黒一丁目地区プロジェクトまちづくり計画の推進

本学は「中目黒・代官山キャンパス」の開校以来、東京都都市整備局及び目黒区より承認を受けた「上目黒一丁目地区プロジェクトまちづくり計画書」に定める誘導目標の実現に努めている。7つの誘導目標のうち、1. 緑の保全・確保やオープンスペースの創出、2. 景観への配慮、周辺環境との調和等、圧迫感のない施設計画、3. 環境対策、省資源及び省エネルギーへの配慮、4. 地域に開かれた防災機能の確保、5. 周辺地域が育んできた歴史や文化への配慮、7. 二つのまちを結ぶ散歩道の形成の各項目については、日常の施設管理の徹底により、概ね目標を達成できたものと考えている。一方、6. 周辺地域のコミュニティの形成については、新型コロナウイルス感染症の影響によりさまざまな連携行事・活動の中止を余儀なくされたことから、目標に照らして十分な取組みを行えなかった。

上目黒一丁目地区プロジェクトをテーマとした見学会の実施

会場	内容	開催日
中目黒・代官山 キャンパス	目黒区街づくり推進部及び戸田建設との連携により、東京都建築主管部課長を対象に、上目黒一丁目地区プロジェクトをテーマとした見学会を実施した。	2020年 8月25日(火) 11月27日(金)

○ としまコミュニティ大学講座への支援

豊島区と豊島区内7大学(東京音楽大学・学習院大学・川村学園女子大学・女子栄養大学・大正大学・帝京平成大学・立教大学)が各大学の特色を活かした講座を開催し、学習の成果を地域につなげる事業を展開するものであり、学びを通じて人と人がつながり、地域へとつながり、活動へとつながり、生き生きとした地域づくりにつながる「学びの循環(わ)」の中で、地域(街・社会)文化の担い手づくりを目指している。

本学は、豊島区との協働により生涯学習の充実を図り、地域社会に貢献することを目的とし、2020年度において以下のとおりの事業を実施した。

2020年度としまコミュニティ大学講座

講座会場	講座名	講師名	内容	開催日
池袋キャンパス Jスタジオ	箏 古典～現代	滝田美智子 客員教授	箏、二十五絃箏、低音箏で 箏曲の魅力を紹介する。	2020年 9月13日(日)
池袋キャンパス Jスタジオ	ジャワ島の宮廷音楽 『ガムラン』の魅力	木村佳代講師 樋口なみ講師	ガムランの合奏の仕組み を、西洋のオーケストラと 比較して説明。	2021年1月24日(日) (2回開講) ※緊急事 態宣言発出に伴い中止

○目黒区との連携講座（生涯学習講座）の実施、ワークショップへの参加

目黒区教育委員会は、区内大学等（東京音楽大学・東京大学・東京工業大学・放送大学・筑波大学付属駒場中・高）との連携により、教育機関の持つ専門的な知識・技術の集積を生かした生涯学習講座を実施している。本学は、中目黒・代官山キャンパスの開校を機に2018年度から毎年度1講座を開講しており、地域の受講者から高評価を得ている。

また、目黒区街づくり推進部との連携により、本学学生が、経年劣化した「目黒区民センター」の見直しに関する学生ワークショップに参加した（他に「東京工業大学」「東京都市大学」学生が参加）。本学学生は、音大学生ならではの観点から、主に同施設の「ホール棟」の改善プランについて積極的な提言を行い、同センターの将来構想の策定に貢献した。2020年度には以下のとおり事業を実施した。

東京音楽大学×目黒区教育委員会による生涯学習講座の実施

会場	講座名	講師名	内容	開催日
中目黒GT プラザホール	日本のピアノ事始 —洋楽受容史をたどる	武石みどり教授	日本に西洋音楽が入ってきた過程と、その中でピアノが果たした役割について考察する	2021年 3月6日(土)

目黒区民センターの将来を考える大学生ワークショップへの参加

会場	内容	開催日
目黒区総合庁舎	目黒区街づくり推進部との連携により、本学学生が「目黒区民センター」(建替予定)の将来像に対する提言を行った。 (他に「東京工業大学」「東京都市大学」が参加)	2020年 10月11日(日)

②社会貢献活動

○社会人講座(指揮研修講座)の実施

2020年9月より実施開始した東京音楽大学指揮研修講座は、「指揮にかかわる技術や知識を体系的かつ実践的に修得することを通じて、創造性に満ちたリーダーを育てる東京音楽大学作曲指揮専攻の独創的な教育を、社会人などを対象に広く一般公開する。」ことを目的としている。講座内容は、(1)指揮レッスンの受講(2台のピアノによる個人レッスンで、指揮技術と知識に関して体系的な指導を受ける。)、(2)指揮マスタークラスへの参加(指揮専攻学生が実際にオーケストラを指揮するマスタークラスに参加することができる。音楽を媒介として、人生における様々な「学び」を得ることができる。)となっており、31名が受講した。

○演奏会の開催

外部団体主催の依頼演奏会では、春学期のものはすべて中止、秋学期以降でもミニコンサートでは、対象が幼児や高齢者の場合や、演奏者との距離がとれない演奏会については、本

番の直前まで実施を予定していてもほぼ中止となった。

合唱団においては、毎年恒例となっている日本フィルハーモニー交響楽団との『第九演奏会』では、例年 100 名以上で演奏しているところ、専攻生 40 名でマスク着用、ソーシャルディスタンス等の感染予防対策徹底により、開催することが可能となった。

外部団体からの出演依頼による演奏会（管弦楽・吹奏楽・合唱）

演奏会名（主催）	日時	場所	出演
日本フィルハーモニー交響楽団 第 720 回東京定期演奏会〈春季〉 ラフマニノフ／歌劇《アレコ》 （日本フィルハーモニー交響楽団）	2020 年 5 月 15 日（金） 19:00 開演【中止】	サントリーホール	合唱団（指揮：アレクサンドル・ラザレフ、管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団）
	2020 年 5 月 16 日（土） 14:00 開演【中止】		
第 22 回別府アルゲリッチ音楽祭 （アルゲリッチ芸術振興財団）	2020 年 5 月 16 日（土） 17:00 開演【中止】	別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ	シンフォニーオーケストラ（指揮：チョン・ミン、ソリスト：M.アルゲリッチ、藤田真央）
第 20 回アシテジ世界大会・東京 （第 20 回アシテジ世界大会・東京実行委員会）	2020 年 5 月 24 日（日） 17:00 開演【中止】	新国立劇場中劇場	シンフォニーオーケストラ
第 4 回としまおやこコンサート （東京商工会議所豊島支部青年部）	2020 年 6 月 21 日（日） 【中止】	本学 A 館 100 周年記念ホール	シンフォニックウインドアンサンブル（共演：高南小学校）
第 6 回こどもの夢ひろば”ボレロ” （こども夢ひろばボレロ実行委員会）	2020 年 7 月 18 日（土） 11:15/15:00 開演【中止】	日立システムズホール 仙台コンサートホール	オーケストラ選抜メンバー
	2020 年 7 月 19 日（日） 11:15/15:00 開演【中止】		
東京音楽大学が奏でる癒しの森コンサート vol.10（信濃町・本学）	2020 年 9 月 13 日（日） 13:30 開演【中止】	長野県信濃町総合体育館	シンフォニーオーケストラ
マエストロの白熱教室 2020 指揮者・広上淳一の音楽道場 （フィリアホール）	2020 年 10 月 4 日（日） 13:00 開演	フィリアホール （横浜市青葉区民センター）	指揮学生、有志学生オーケストラ
第 19 回みないけコンサート （豊島区立南池袋小学校）	2020 年 10 月 17 日（土） 10:00/11:15 開演	本学 A 館 100 周年記念ホール	シンフォニックウインドアンサンブル
ハンガリー国立フィルハーモニー 管弦楽団「マーラー復活」 （ジャパンアーツ）	2020 年 11 月 13 日（金） 19:00 開演【中止】	東京芸術劇場コンサートホール	合唱団（指揮：小林研一郎、管弦楽：ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団）
第 11 回音楽大学オーケストラフェスティバル（実行委員会）	2020 年 12 月 6 日（日） 15:00 開演	東京芸術劇場コンサートホール	シンフォニーオーケストラ（共演：東邦音楽大学）
みんなでベートーヴェン！ （LEGARE）	2020 年 12 月 13 日（日） （配信用動画収録）	びあアリーナ MM	合唱団（指揮：広上淳一、管弦楽：Beethoven Jubilee スペシャルオーケストラ、二期会合唱団）
日本フィルハーモニー交響楽団 「第九」交響曲演奏会 （日本フィルハーモニー交響楽団）	2020 年 12 月 19 日（土） 17:00 開演	横浜みなとみらいホール	合唱団（指揮：沼尻竜典・小林研一郎、管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団）
	2020 年 12 月 22 日（火） 19:00 開演	サントリーホール	
	2020 年 12 月 23 日（水） 19:00 開演	横浜みなとみらいホール	
第 10 回音楽大学フェスティバルオーケストラ（実行委員会）	2021 年 3 月 27 日（土） 15:00 開演【中止】	東京芸術劇場コンサートホール	9 音楽大学選抜学生
	2020 年 3 月 28 日（日） 15:00 開演【中止】	ミュゼザ川崎シンフォニーホール	

外部団体からの出演依頼による演奏会（アンサンブル・ソロ）

演奏会名（主催）	日時	場所	出演
第34回中目黒桜まつり （中目黒駅前商店街振興組合）	2020年4月5日（日） 【中止】	目黒川蛇崩川合流地 点 遊び場	サクソフオーン 四重奏
第8回GT スプリングゴスペル （中目黒GT 全体管理組合）	2020年4月5日（日） 【中止】	中目黒GT1階 GTタワー前広場	サクソフオーン 四重奏
東京共済病院 春のコンサート （東京共済病院）	2020年4月23日（木） 【中止】	東京共済病院1階エン トランス	ピアノ
第42回読売中部新人演奏会 （読売新聞社）	2020年4月25日（土）【延期】 2020年8月1日（土）【中止】 ※4月25日（土）から延期	三井住友海上しらか わホール	ピアノ
第90回新人演奏会 （読売新聞社）	2020年5月4日（月・祝） 11:00/17:00 開演 【中止】 2020年5月5日（火・祝） 11:00 開演 【中止】 2020年11月21日（土） 11:30/17:30 開演 ※5月4日（月・祝）から延期 2020年11月22日（日） 11:30 開演 ※5月5日（火・祝）から延期	東京文化会館大ホール	ピアノ、声楽、ヴァイオリ ン、サクソフオーン
自由が丘スイーツフェスタ （自由が丘商店街振興組合）	2020年5月6日（水・祝）【中止】	自由が丘駅前女神広場	弦楽四重奏、 金管五重奏
第21回新人演奏会 （日本ピアノ調律師協会）	2020年5月10日（土） 17:00 開演 【中止】 2020年10月11日（日）17:00 開演 ※5月10日（日）から延期	東京文化会館小ホール 神奈川県立音楽堂 ※延期のため、会場変更	ピアノ
京都・国際音楽学生フェスティバル 2020（ロームミュージックファン デーション）	2020年5月23日（土）～27日 （水）【中止】	京都府立府民ホール アルティ	テノール、ヴァイオリ ン、ヴィオラ
としまコミュニティ大学 「マナビト開講式」（豊島区）	2020年6月6日（土） 14:10～14:40 【中止】	豊島区庁舎1階としま センタースクエア	クラリネットアンサン ブル
ヤマハ管楽器新人演奏会 （ヤマハミュージックジャパン）	2020年6月17日（水） 18:00 開演 【延期】 2020年6月18日（木） 18:00 開演 【延期】 2020年6月19日（金） 18:00 開演 【延期】 2020年10月15日（木）18:00 開演 ※6月17日（水）から延期 2020年10月16日（金）18:00 開演 ※6月18日（木）から延期 2020年10月17日（土）15:00 開演 ※6月19日（金）から延期	ヤマハホール	クラリネット、 オーボエ、 トランペット
日本・ポーランド交流コンサート （目黒区・ポーランド大使館・本学）	2020年6月9日（火） 18:30 開演 【中止】	本学 TCMホール	ピアノ、ヴァイオリン、 チェロ、声楽
イケビズフェスタ 2020 （IKE・Biz 指定管理者としまのちから）	2020年11月23日（月・祝） 10:00 開演/11:00 開演	IKE・Biz としま産業振 興プラザ	金管五重奏

東京音楽大学表参道サロンコンサート (カワイ音楽振興会)	2020年5月14日(木)【延期】 2020年6月30日(火)【延期】 2020年11月19日(木) ※5月14日(木)から延期 2021年2月10日(水) ※2020年3月5日から延期 2021年2月17日(水) ※2020年6月30日より延期 2021年2月24日(水) 2021年3月10日(水)	カワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」	ピアノ
ランチタイムコンサート (ベーゼンドルファー東京)	2020年5月29日(金)【延期】 2020年6月19日(金)【延期】 2020年9月11日(金)【延期】 2020年10月2日(金) 2020年11月20日(金) ※5月29日(金)より延期 2020年11月27日(金) 2020年12月18日(金)【中止】 2021年2月10日(水) ※6月19日(金)より延期 2021年2月16日(火) ※9月11日(金)より延期 12:15~12:45	ベーゼンドルファー東京	ピアノ
ベーゼンドルファーアフタヌーンコンサート (ベーゼンドルファー東京)	2021年3月8日(月) 13:30開演 ※2020年3月27日(金)より延期	ヤマハ銀座コンサートサロン	ピアノ
区庁舎ランチタイムコンサート (豊島区)	2020年6月10日(水)【中止】 2020年7月8日(水)【中止】 2020年9月9日(水)【中止】 2020年11月11日(水)【中止】 2021年1月29日(金) 2021年3月9日(火) 12:35~13:05	豊島区役所庁舎1階としまセンタースクエア	打楽器 声楽 弦楽四重奏 サクソフォーン四重奏 木管五重奏、ピアノ 声楽
区民ひろば回遊音楽キャラバン (豊島区)	2020年5月20日(水)【中止】 2020年6月30日(水)【中止】 2020年7月1日(水)【中止】 2020年10月7日(水)【中止】 2020年12月2日(水) 10:30~11:00 2021年1月13日(水)【中止】 2021年2月3日(水)【中止】 2021年3月3日(火)【中止】	区民ひろば池袋 区民ひろば要 区民ひろば千早 区民ひろば富士見台 区民ひろば高南第二 区民ひろば南池袋 区民ひろば南大塚 区民ひろば朝日	ヴァイオリン 声楽 弦楽器 打楽器 ピアノ連弾 打楽器 弦楽四重奏 弦楽四重奏
東京音楽大学提携シリーズ ロビーコンサート (北本市文化センター)	2020年5月21日(木)【延期】 2020年12月4日(金) ※5月21日(木)から延期 2021年1月21日(木)【延期】 2021年3月5日(金) 14:30開演 ※1月21日(木)から延期	北本市文化センターロビー	声楽二重唱 声楽二重唱 サクソフォーン四重奏 サクソフォーン四重奏

(7) 付属教育研究組織

① 付属図書館

○新型コロナウイルス感染症に伴う対応

新型コロナウイルス感染症の蔓延する中、感染予防対策に努めるとともに、学生の学びを止めないための図書館運営を推進した。

具体的には、資料の郵送貸出、文献複写物の郵送対応、問合せ・申込のためのオンライン・フォームの開設、電話やメール等オンラインでの問合せや利用登録、学修相談対応、図書館システムからの資料の取置き予約機能の追加設定、契約データベースへのリモートアクセス方法の周知、期間限定で無料公開されたデータベース等、学習や研究、音楽活動等に役立つ情報の発信、図書館ガイダンス動画の作成、電子書籍の積極的選書等を行った。

図書館は、場所に縛られるサービス運営が当たり前と考えてきたが、発想の転換を迫られると同時に、何が優先で、大切かを改めて考えるきっかけを与えられ、これまで踏み切れなかったサービスに思い切って踏み切ることができた。

感染症対策として実施した新たなサービスや試みは、今年度限りで終了することなく継続するとともに、今後もウィズ・コロナ、アフター・コロナ時代にあるべき大学図書館像を検討する。

○ステイホーム期間中の学修支援

入構制限が続き、遠隔授業等が開始される中、図書館として教員・学生に役立つ資料や情報の提供を積極的に行った。

また、通常はクリエイティブラボ・カウンターにて、週2日、対面による学修相談に応じていた学修サポートを付属図書館内でのオンライン対応(オンラインフォーム、メール、電話、Zoom等)に切り替え、実施した。レファレンスや資料探索等の問合せについても、電話や専用フォーム、メール等からのオンライン対応で実施した。2020年度の実績は以下のとおりである。

2020年度図書館レファレンス件数と利用登録

		所在調査	事項調査	利用指導	その他	合計	利用登録
2020 年度	カウンター対応	358	11	2,738	770	3,877	51
	オンラインフォーム	57	6	115	7	185	152
	合計	415	17	2,853	777	4,062	203
2019 年度		712	15	4,925	1,545	7,197	347

学修サポーター(週2日10時～17時 稼働日数76日)

学生相談	49件	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文のテーマの設定 ・文献収集方法 ・先行研究の調査方法 ・プログラムノートの書き方等の相談
クイックレファレンス	22件	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館所蔵資料の検索方法 ・データベースの使い方 ・音楽アプリの使い方 ・パソコン操作方法等の質問

○オンラインによる図書館及び情報リテラシー教育の実施

例年、新入生向けに、1年生必修の西洋音楽史概論担当教員と連携し、授業の一環として履修者全員を対象に、図書館ガイダンス(パソコン教室でのPCを使った検索演習と図書館内ツアー:60分メニュー)を対面で実施しているが、今年度はこれに代わるガイダンスとして、動画視聴とオンラインフォームによる課題提出を、西洋音楽史概論担当教員の協力の下、実施した。履修者の86%・323名がオンライン・ガイダンスを受講。受講した学生からは大変好評で、コロナ禍で入構制限のある中、わかりやすい動画で図書館の様子や検索方法を知ることができ、ぜひ活用したいとの声が多かった。

同じガイダンス動画については付属高校教員にも案内し、高校生への視聴を勧めた。なお、ガイダンス動画は、新入生向けに館内案内と音楽資料の検索方法に関するもの8編(約60分)、その他学修に役立つもの2編(約20分)、計10編を、今年度は作成した。

また、論文執筆を目指す上級生向けには、契約データベース各社が実施・提供するオンライン・ガイダンスの日時やリンク先等を広報・周知した。

○古本募金と学生選書ツアー

学内外の方からの古本による寄付支援プロジェクトを2015年度より実施している。提携の古本業者(バリューブックス)に専用の手続きを経て提供された古本の買取額が大学に寄付されるというもの。この寄付金で、例年は学生選書ツアーを実施するが、今年度は感染症の状況に鑑み実施を見送った。

(ア) 古本募金額

(1月～12月)	買取冊数	寄付金額
2020年	1,202点	24,474円*
2019年	2,229点	70,183円
2018年	2,602点	44,213円
2017年	5,561点	127,693円
2016年	2,602点	47,413円

*新型コロナウイルスの影響で一定期間、提携業者の受付停止

○テーマ展示の実施

図書館 1 階ロビーとクリエイティブラボ・StudyArea 内等の各所に資料の展示スペースを設け、様々な内容のテーマ展示を開催した。

ショーケースでは、作曲家の自筆譜ファクシミリの展示を行い、開架書架では、学生の学修に役立つ書籍をテーマごとにまとめて配架、目に留まるように工夫した。また本学教員の CD や DVD のミニ展示も展示物を変えながら常設で行った。

2020 年度テーマ展示実績

No.	展示内容	期間	場所
1	「音大生の本棚 2020」 (新生入向けの書籍 100 点を開架)	5 月 8 日 ～11 月	付属図書館 1 階ロビー展示書架
2	ファクシミリ版シリーズ 「ベートーヴェン：ピアノソナタ第 30 番ホ長調作品 109 第 2 楽章」	7 月 8 日 ～8 月	クリエイティブラボ Study Area ショーケース
3	ファクシミリ版シリーズ 「ベートーヴェン：交響曲第 3 番作品 55 変ホ長調『英雄』」	7 月 8 日 ～8 月	付属図書館 1 階ロビー ショーケース
4	「古関裕而と…」 (関連書籍と録音資料 25 点を開架)	7 月 8 日 ～10 月 14 日	クリエイティブラボ Study Area 展示書架
5	「続・音大生の本棚（上級生向け）」 (上級生向けの書籍 22 点を開架)	10 月 15 日 ～3 月	クリエイティブラボ Study Area 展示書架
6	「古関裕而と…」 (関連書籍と出版楽譜 21 点を開架、手稿譜 1 点を展示)	12 月 4 日 ～3 月	付属図書館 1 階ロビー 展示書架 & ショーケース
7	ファクシミリ版シリーズ 「ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第 5 番変ホ長調作品 73『皇帝』」	12 月 4 日 ～3 月	クリエイティブラボ Study Area ショーケース

○ニッポニカ・アーカイヴの運用

アマチュアでありながら意欲的なプログラムで定評のある演奏団体、オーケストラ・ニッポニカより寄託されている、未出版の日本人作曲家による管弦楽作品の演奏譜を要望のある演奏団体へ貸し出すことを 2014 年度より実施している。名曲でありながらも演奏譜が出版されていないため、歴史に埋もれつつある日本人作曲家の管弦楽作品上演の関心は高く、問合せは絶えない。

オリンピックイヤーとも重なり、コロナ禍にあっても多くの問合せがあった。演奏会開催の見込みが立たず貸出に至らなかったケースもあったが、貸出したものの中には公演中止になったものもあった。

ニッポニカ・アーカイヴ演奏譜貸出実績

No.	公演日	演奏団体	会場	演奏曲
1	2020年 6月24日	ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団	東京文化会館	早坂文雄作曲《羅生門》※新型コロナウイルス感染症の影響で公演中止
2	2020年 6月20日	ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団	Waldbühne, ベルリン	早坂文雄作曲《羅生門》※新型コロナウイルス感染症の影響で公演中止
3	2020年 7月17日	九州交響楽団	アクロス福岡シンフォニーホール	伊福部昭作曲《シンフォニア・タブカーラ》※新型コロナウイルス感染症の影響で公演中止
4	2021年 2月4日	札幌交響楽団	札幌文化芸術劇場 hitaru	早坂文雄作曲 《左方の舞と右方の舞》
5	2020年 2月7日	どさんこジュニアオーケストラ	音更町文化センター大ホール	伊福部昭作曲 《シンフォニア・タブカーラ》
6	2020年 9月27日	東京ニューシティ管弦楽団	東京芸術劇場コンサートホール	伊福部昭作曲 《シンフォニア・タブカーラ》
7	2021年 8月21日	東京フォレストオーケストラ	サンパール荒川	伊福部昭作曲 《シンフォニア・タブカーラ》
8	2021年 2月20日	沖縄県立芸術大学	沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール	紙恭輔《木琴協奏曲》※新型コロナウイルス感染症の影響で公演中止
9	2021年 3月15日	東京フィルハーモニー交響楽団	NHK スタジオ	早坂文雄作曲《ピアノ協奏曲》

○中目黒・代官山キャンパス、クリエイティブラボの施設等貸出管理開始

今年度より、中目黒・代官山キャンパス内、クリエイティブラボ・フロアの各施設の予約・貸出管理を開始した。通常は、複数名で利用可能なグループ学習室(Lab)については、感染予防対策のため、授業目的に限り、各室・定員1名と制限付きの貸出対応を行った。オープンスペースでは座席を間引き、感染症予防対策に配慮した。

年度の後半では、スペース内にあるステージにて、授業の一環(Act プロジェクト)として企画運営される学生によるミニコンサート2件開催され、施設・備品等の予約・貸出対応を行った。

- ・施設貸出：214件(グループ学習室及びステージ)
- ・ノートPC貸出：50件
- ・PC以外の機器貸出：6件

○本学主催及び関連演奏会プログラムの整理とアーカイブサイトの開設

本学主催及び関係の演奏会プログラム及びチラシ(1965年度～2018年度)、1000件以上の紙媒体としての整理、目録データ作成、物理的な保管に加え、チラシ及びプログラム全頁の

画像データを図書館 OPAC の書誌情報詳細ページから、キャンパス内ネットワーク経由で閲覧できるようにした。加えて、チラシ表面画像と簡単な演奏会情報を専用の演奏会アーカイブサイトにて公開した。https://tokyo-ondai-lib.jp/program/Web 公開されたアーカイブ・サイトでは、開催年度、主な出演者、演奏会タイトル等で検索ができ、また図書館 OPAC では、公演日、主な出演者、演目等より詳細な条件で検索できる。

演奏会プログラムのアーカイブ化は、本学の歴史を知る上でも、また時代ごとの演奏会レポーターを確認する上でも、いずれ貴重な情報源となっていくものと確信し、今後も継続する。

○刊行物の発行と機関リポジトリ運用

研究紀要第 44 集(冊子)、大学院論文集第 6 巻第 1 号及び 2 号(CD-Rom)を刊行し、掲載論文等全てを機関リポジトリにて公開した。

また、リポジトリでの学位論文、博士課程総合演習研究成果等を公開するにあたり、適切な書式・体裁について検討した。加えて、博士課程学生の論文作成等のサポートをしている研究支援職員と Web 公開する論文書式の注意点(論文作法や譜例の引用の仕方等)等、執筆者に周知すべきことについて、情報交換と申し合わせを行った。

○図書館の利用状況

本学は音楽大学ということもあり、高価な楽譜等個人では多数買い揃えにくい資料の利用が多く、長年高い図書館利用率を誇っていた。しかし、今年度は感染症拡大防止に伴う入構禁止、外出制限等により、開館日数・開館時間を縮小したことも大きく影響し、貸出点数・利用率共に大幅に減少した。

一方、昨年度から始まった 2 キャンパス運営に伴い、研究・学修に必要なデータベースや電子書籍の拡充に努め、リモートアクセス環境を整備してきたことにより、学生の学修の不便さは軽減しつつあり、多くのデータベース、電子書籍の利用数が大幅に増加した。特に電子書籍の利用数の増加は、EBSCO 社の好意により、一定期間、全ての eBook コンテンツを無償で開放されたことも大きな要因である。無料開放期間中に利用された eBook については年度内の選書の検討材料とした。

利用率の低下はコロナ禍だけに起因するものだけではなく、音源、動画、楽譜等様々な情報や便利なアプリ等をウェブ上から得られる時代背景も要因である。そのような中で、学修・研究のためにどのような資料をそろえ、図書館サービスをどう展開していくかが今後の大きな課題である。

(ア) 図書館の利用状況

・開館日数、来館者数

	開館日数	入館者数	
		総数	一日平均
2020年度	213日	15,160人	71人
2019年度	258日	33,079人	128人
2018年度	246日	66,810人	272人

・蔵書数

2020年度	楽譜	和書	洋書	録音資料	映像資料	合計
	70,234点	28,847点	26,001点	42,909点	4,223点	172,214点
eBook(内数)	351点	175点	632点			1,158点

雑誌	電子ジャーナル	契約データベース
1,097タイトル	69タイトル	16種類

・資料貸出点数の推移と利用率



	利用率		一人当たりの年間貸出点数	
	学部生	院生	学部生	院生
2020年度	57%	77%	7点	19点
2019年度	80%	95%	15点	45点
2018年度	88%	99%	20点	58点

○2020年度事業概要(その他)

事業名	実施時期	事業内容
感染症対策	通年	<p>6月以降キャンパスへの段階的な入構制限緩和に伴い、付属図書館内及びクリエイティブラボの感染症対策を講じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンター等のアクリルパーテーションの設置 ・感染症予防策広報ポスター掲示等 ・手指消毒液や除菌用ウェットティッシュと専用ゴミ箱等の設置 ・利用者スペースの家具の配置変えや座席数の間引き ・カウンター周り、検索台等のこまめな清拭 ・貸出機器等の清拭 ・入室者管理表の設置 ・入構、入館ルールの周知徹底
民族音楽研究所への図書館システム導入サポート	通年	<p>民族音楽研究所の蔵書を図書館システムで、図書館と同じような方法で管理したいとの申し出が研究所よりあった。所長はじめ関係教員、スタッフと打合せを行い、具体的な要望の聞き取り、認識合わせを行った。加えて、目録作業を行う研究所スタッフに、図書等資料の書誌・所蔵情報の入力方法について研修を実施した。</p>

<p>附属図書館改修に向けた検討の開始</p>	<p>8月～3月</p>	<p>施設課で実施を開始した「東京音楽大学附属図書館及び附属幼稚園の改修整備計画立案のための課題抽出」について、図書館の運用実態、建物の不具合箇所等の情報をまとめて、関係者に提供した。図書館建物の耐火耐震上の問題点について認識を新たにするとともに、一部書庫からの資料の移動等、当面の安全性確保のための対策を行った。</p> <p>また、選書会議出席教員とともに、今後の図書館の在り方について検討を開始した。</p> <p>・図書館懇談会(3回実施:12/22, 2/8, 3/18):耐火耐震のための図書館改修を視野に入れながら、今後の図書館の在り方、運営について教員を交えて意見交換しながら、検討した。</p>
-------------------------	--------------	--

②附属民族音楽研究所

○民族音楽研究所の研究活動概要

本研究所は、伝統的な音楽文化を継承しつつ新たな音楽文化を生み出す音楽実践、研究、教育を組織的に展開している。

2020年度からは、特に研究所としての確固たる研究体制を構築することにより、アジア音楽に関する創造的な研究を推進し、アジア音楽の研究拠点として研究所のブランディング化をはかることを目指している。

研究体制の構築の一つとして、本研究所にこれまで蓄積されてきた研究資料(文献、映像・音源)のデータベース化に着手し、附属図書館と連携しながら、外部への公開に向けて作業を進めた。これにより、本研究所の所蔵資料が、国内外の民族音楽学研究的の推進に向けて大きく寄与することが期待される。

○公開講座

公開講座、民族音楽等社会人特別講座なども一層の展開をはかり、公開講座「パンフルートの贈り物 ～ ルーマニアの風に乗せて～」ではルーマニアの演奏家とオンラインでつないだ新たな公開講座の形態を開発した。

「ガムラン講座」においても、これまで長年にわたり本研究所が教育研究交流を進めてきたインドネシア国立芸術大学のジャワガムラン、ジャワ舞踊の教員たちの指導をオンラインで受講するオンライン・ワークショップを試み成果をあげた。

○2020 年度事業概要

事業名	実施時期	場所	事業内容
文化庁・大学における文化芸術推進事業 「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成～「伝統×現代」のクロスオーバーによる新たな価値の創出を目指して～」	I 基礎講座 2020年8月8日(土) ～2021年2月末まで II 実践セミナー 2020年9月12日(土) ～10月4日(日) III 企画・制作研修 2020年10月3日(土) ～2021年3月7日(日)	Zoomによる開催 池袋キャンパス 中目黒キャンパス(TCMホール)	本研究所が事業推進母体である「文化庁・大学における文化芸術推進事業」では、その2年目として「伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成～「伝統」×「現代」」を本研究所所属のガムラン、生田流箏曲の教員ならびに民族音楽学研究の教員が中核となって実施をはかり、企画A「未来のアジア芸能“をつくる～ステージの表現”」、企画B-1「オンライン芸能村-日本とアジアの芸能ネットワークづくり」、企画B-2「箏をめぐる現代～オンラインで魅せる楽器の力」のそれぞれにおいて、オンラインならではの芸能や音楽を生み出し公開した。
「公開講座」の開催 (全2回)	2020.11.05 2020.12.06	Zoomによる開催 池袋キャンパス (Aホール)	「パンフルートの贈り物～ルーマニアからの風の贈り物」ではオンラインによる公開講座という新たな講座の形態を開拓できた。定員を設けて実施した「モンゴル音楽の世界」(Aホール)では、短期間で定員に達しその後の申込みを断り続け、公開講座の社会教育活動としての役割を再認識した。
「民族音楽等社会人特別講座」	通年	付属民族音楽研究所、 中目黒・池袋キャンパス	社会人に向けて民族音楽等の実技と講義の両面から総合的理解を深める機会を提供する「民族楽器等 社会人特別講座」を開講した。2020年度の講義はZoomによる開催となり、実技も春学期はオンラインで実施した。オンラインによる講義には、北海道や新潟など遠隔地からの受講生も、毎回出席できるよう、今後のオンライン開催の可能性を検討した。

「ガムラン講座(2講座)」	通年	付属民族音楽研究所	社会教育ならびに地域連携の一環として、ジャワガムラン、ジャワ舞踊の講座を継続して開講した。春学期は、いずれもオンライン開催となったが、専門的知識を得ることができたという受講生からの意見を数多く聞くことができた。また、インドネシア国立芸術大学のジャワガムラン、ジャワ舞踊の教員たちの指導をオンラインで受講するオンライン・ワークショップを一部取り入れ、今後のオンライン・ワークショップ開催につなげた。
としまコミュニティ大学	2020. 9. 13	池袋キャンパス (Jスタジオ)	東京音楽大学×としまコミュニティ大学の企画として、滝田美智子客員教授とその門下による「箏 「箏古典～現代」-二十五絃箏に魅せられて」が開催され、箏曲の新たな魅力を一般市民に伝えることができた。
研究紀要『伝統と創造』 Vol. 10の刊行	2021. 3	付属民族音楽研究所	論文3本、報告2本ならびに資料：所蔵楽器の紹介資料(7)を収載した研究紀要『伝統と創造』Vol. 10を発行した。

(8) 付属学校等

① 付属高等学校

○ 入学・在学状況

2020年度の新入生は77名となり、2019年に比べ減少傾向にある。クラス編成は1年生2クラス、2年生2クラス、3年生3クラスの7クラス編成となり、全体としては総在籍数251名と安定した生徒の確保ができているものの、社会の変革に伴う学校を取り巻く環境の変化に対応し、音楽を主軸とした創造性を高める教育を牽引するべく更なる事業活動の強化を図る必要がある。

○ 教学に関する活動

新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度については、春学期は全面オンライン、秋学期はオンライン・オフラインの併用により学校運営を行った。Google Workspace(旧:G Suite)を中心としたソリューションを活用することで、授業のみならずオンラインオープンスタールといった新たな取り組みや文化祭といった行事のオンライン配信、生徒との情報共有やデータベースの更新など、DX(デジタルトランスフォーメーション)に向けた事業活動を推進した。また、教育の質向上と組織内の共通認識を作り本校のブランド価値を向上させることを目的として、教育目標を改め、ビジョン、ミッション、バリュー、アプローチなどを新たに設定した。

・音楽関連科目、語学、アンサンブル系の高大連携を進め、一部高校生の在学中における大学の単位取得を目指しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、推進することが出来なかった。今後、大学との連携について、情報連携・協議会等を設けることで方針を模索したい。

・新学習指導要領に基づき、各評定資料の更新、オンラインによる学習コンテンツの強化など充実を図った。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインによる実施またはレッスン自体の中止を余儀なくされ、全体の満足度の向上を図ることができなかった。生徒へのケアや綿密な連絡を通して対処を行った。

・これまで10人弱程度であった音楽基礎教育コースの受講者が、オンラインで開催したことにより日本全国から29名の参加者に増え、多くの受験予備軍に訴求することができた。

○広報活動

ホームページを含め広報活動の充実を図り、本校の教育内容を周知させる。本年度は高校サーバーに対してハッキングによりバックドアが埋め込まれるというセキュリティインシデントが発生した。今後このようなことが無いよう、CMSプログラムの隠蔽や24時間ソフトウェアによる監視などセキュリティを強化した上で、SNSなどの活用も含め、より包括的に広報を行う。

(ア) オンラインオープンスクールの開催

新たにオンラインによるオープンスクールをVRにより開催した。3DCGで制作した中目黒・代官山キャンパスをVR空間に設置し、延べ3000人の来場があった。また、広上淳一教授、卒業生である周防亮介、藤田真央氏との対談を開催し、授業以外の学びや気付きを得る場を創出した。

○ビジョンの制定

教育の質向上とブランド価値向上のために「音楽を軸に自分らしさを解き放ち、クリエイティヴに生きよう。」というビジョンおよび、それに関連するミッション、バリュー、アプローチ、ブランドコミュニケーションについて制定した。

○高等学校行事等実績

行事名	日時・場所	行事内容
交歓演奏会	5月30日 池袋キャンパス	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
春期楽典 ・聴音無料体験会	5月9日 池袋キャンパス	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
室内楽演奏会	6月27日 池袋キャンパス/Jスタジオ	新型コロナウイルス感染症の影響により観客を出演保護者に限定して開催した。

オンラインオープン ンスクール	7月18日～19日 オンライン開催	学校説明会、対談、画家の絹谷幸二氏とのコラボレーションによる美術展をVRSNS サービス cluster を活用してVR空間で開催した。ヴァーチャル上の中目黒・代官山キャンパスやバーチャル美術館には延べ3000人が訪れた。
校外教室	1年生対象 9月4日～6日 宮城県・女川町 89名参加	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
体育祭	9月24日 東京武道館	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
夏期受験講習会	8月19日～22日 中目黒・代官山キャンパス	参加者84名（遠隔実技レッスン6名、対面実技レッスン78名）で実施した。
秋期楽典・聴音無 料体験会	10月3日 池袋キャンパス	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
文化祭 (音羽祭)	10月31日、11月1日 オンライン開催	オンラインにより開催した。生徒が制作した学校紹介動画やMVなどをWebサイトを通して閲覧する形と、2日間のライブによるコンサート配信を行った。 Webサイト訪問数：合計1,400名（日本国内だけでなく中国、カナダやフランスなどからのアクセスもあった） コンサートライブ配信：1日目2289回再生/2日目1337回再生
推薦演奏会	10月31日 池袋キャンパス/Jスタジオ	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
オペラ発表会	10月17日 大学TCMホール	新型コロナウイルス感染症の影響により延期、その後2月27日に収録し、アーカイブ配信した。
チャリティーコン サート	12月1日 東京芸術劇場 コンサートホ ール	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、客席数を40%に制限して開催した。客演として、女声合唱にソプラノの鈴木玲奈さんが共演、ヴァイオリン協奏曲ではコンクール入賞者の本学生徒（前田妃奈）、ピアノの津野絢音が出演。黒柳徹子さんを通じて70万円をユニセフに寄付した。 (入場者800名)
冬期講習会	12月24日～27日 中目黒・代官山キャンパス	参加者94名（全科目受講対面レッスン26名、対面実技レッスン24名、夏・冬全科目受講対面レッスン31名、夏・冬受講対面実技レッスン31名）で実施した。
卒業演奏会	3月3日 YouTube Live	ライブ配信を行い、4000回再生

②付属幼稚園

2020年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄される1年であった。1回目の緊急事態宣言を受け、学校教育機関の休校要請が出されたことにより、本園もそれにならい、4月・5月は休園せざるを得なかった。休園期間中は教職員で動画を作成し、人形劇や紙芝居、親子で楽しめる製作や、体操を紹介したりした。緊急事態宣言が解除され、6月2日、入園式を挙行、3年保育43名、2年保育6名、計49名新入園児を迎え、139名で約2ヶ月遅れの新学期がスタートした。しかし、感染の不安から休園者や途中退園者も多くあった。

感染症対策として、手洗い、手指消毒、うがい、室内でのマスクの着用、給食時のパーティション設置、遊具・教具の消毒等を日々徹底して行った。園児の間でのソーシャルディスタンスは難しいものがあったが、室内やトイレに並ぶ場所には目印を付け、密を避ける意識を持たせるよう、工夫した。

各種行事も、大幅な変更や中止を余儀なくされ、入園式、卒園式は、恒例の学生ブラスの生の演奏は中止とし、全園児が集う形式は止め、該当学年だけで簡素に執り行った。演奏会関係では、観客の制限を行い、多数の人が密集する夕涼み会やバザーは中止とした。このように、あらゆるものが制限される中、感染症対策に配慮しながら保育・行事を遂行した結果、本園では新型コロナウイルス感染症、さらにインフルエンザ等にも別の感染はなかった。

預かり保育	<p>【朝】8:30~9:00</p> <p>【降園後】月・火・木・金 14:00~18:00 水 11:30~18:00</p> <p>*開園日の9割以上実施、平均利用者数 約40名</p> <p>【長期休暇】9:00~18:00</p> <p><春> (2020年) 3月19日~4月9日 13回実施</p> <p><夏>7月19日~9月6日 19回実施</p> <p><冬>12月21日~1月7日 7回実施</p>
ピッコロランド	<p>本園入園を検討している未就園児親子の体験保育。コロナ禍のため1クラスの定員を減らし、クラス数を増やして、8月から計3回(1回あたり4クラス)のプログラムを実施。参加が少ないのではと懸念していたが、ほぼ満員となるほど今年も好評であった。</p>
音大生による音楽会	<p>東京音大学生のうたとピアノ伴奏による音楽会を開催した。</p> <p>“音大付属である特色を活かす”一環として、音大生と音楽を通じて交流をはかるといふ試みであったが、学生2人の演奏とトークに園児たちも喜び、一緒に歌を歌ったり、ダンスをするなど楽しい体験となったようである。園児と学生、近くて遠い存在の雰囲気を感じ、互いに良き関係が気付けるよう、今後も継続してゆきたい。</p>

また、このコロナ禍で、園児募集への影響を危惧していたが、出願数は昨年を上回った。しかし、実際の入園数は3年保育においては伸び悩み、今後の園児獲得に課題が残った。本園の特色をどう発信していくか、また、何を改善すべきか、検討し対策を立てていく必要がある。

2020年度末に、保護者にアンケートをとったところ、保育に関わる事項には良い評価であったが、施設・環境に関しては低評価で、改善を求める声が多くあがったことから、今後、保護者からも見える形で施設環境の充実を推進する。

○2020年度幼稚園行事

事業名	実施時期	場所	事業内容
入園式 ・始業式	2020年 6月2日	池袋キャンパス Bスタジオ	コロナ禍で4～5月を休園、2か月遅れのスタートとなった。3年保育43名、2年保育6名、計49名の新入園児が入園。
音楽会	2020年 9月14日	池袋キャンパス B500	東京音大生による演奏とお話を聴いたり、一緒に歌ったり、ダンスをしたりして楽しむ。事業計画に掲げた音大生との交流の一環として実施した。
運動会	2020年 10月11日	豊島区立南池袋小・体育館	台風の影響により、南池袋小学校体育館で開催。密を避けるため、入場者を大幅に制限し、鼓笛隊演奏の時のみ、年長児保護者1名のみでの入場を可とした。 後日、幼稚園園庭及び池袋キャンパスB館運動場にて、各学年の保護者にあらかじめ、お遊戯や鼓笛隊を披露した。
入園考査	2020年 10月11日	池袋キャンパス 幼稚園舎内	3年保育74名、2年保育14名 出願
作品展	2020年 11月7日 ～11月8日	池袋キャンパス 幼稚園舎内	感染防止として、観覧できる時間をクラスごとに分けるなど、入場制限を行い、開催した。例年と変わらず、園児のたくさん力作を展示した。なお、作品展と同時開催していた保護者会主催のバザーは中止した。
クリスマス 演奏会	2020年 12月16日	池袋キャンパス B500	オペレッタ、木琴合奏、鈴とカスタネットによる分担奏などを披露。鑑賞にあたっては、学年ごとの入れ替え制とした。
卒園演奏会	2021年 1月29日	池袋キャンパス Bスタジオ	卒園する園児40名がレッスンの成果を発表。2度目の緊急事態宣言期間中での演奏会となった。観客を大幅に制限する一方、保護者からの声を受け、B300にて演奏会の様子を、リモート配信した。
ひなまつり演奏会	2021年 2月26日	池袋キャンパス B500	器楽合奏や合唱、オペレッタを披露。鑑賞にあたっては、学年ごとの入れ替え制とした。
卒園式	2021年 3月17日	池袋キャンパス Bスタジオ	40名が卒園。感染対策として規模を大幅に縮小し、卒園児とその保護者のみの参列とした。学生ブラスの演奏の代わりに、レッスン講師がお祝の音楽を演奏、また、卒園児も保護者に対し感謝の気持ちを歌に込め、感動的な式典となった。

○2020年度在籍者数(2020.5.1現在)

学年	クラス	男	女	合計
年少	さくら1組	9	12	21
	さくら2組	9	13	22
年中	すみれ1組	14	13	27
	すみれ2組	13	15	28
年長	ゆり1組	9	11	20
	ゆり2組	9	12	21
合計		63	76	139

○預かり保育

(平常)

曜日	時間帯	1日平均利用園児数
月・火・木・金	8:30~9:00、 14:00~18:00	約40名
水	8:30~9:00、 11:30~18:00	

(長期休暇中)

期間	実施日数	1日平均利用園児数
春期休暇 3月19日~4月9日	13	7
夏期休暇 7月19日~9月6日	19	22
冬期休暇 12月21日~1月7日	7	21

○レッスン実績(2020.7.1現在)

		ピアノ	ヴァイオリン	マリンバ	うた	リトミック	合計
さくら(年少)		0	0	0	0	43	43
すみれ(年中)		29	11	1	10	0	51
ゆり (年長)	継続履修	24	6	3	6	0	39
	追加履修	0	0	0	0	0	

○課外授業

課外授業名	年間授業数	平均参加園児数
カワイ絵画造形教室	各25回	約50名
英語教室(mpi)		約26名
ジャクパ体操教室		約90名
学研プレイルーム		約40名

③附属音楽教室

附属音楽教室は、幼児、小学生、中学生及び高校生を対象とし、実技レッスン、ソルフェージュによる音感教育及び音楽基礎知識（音楽理論）など、音楽大学附属の教室としてバランスのとれた高度な音楽教育を行うことを目的に2020年度においても次のとおり事業を推進した。

○2020年度の演奏会

- ・オータムコンサート：2020年10月11日（日） TCMホール
- ・学内演奏会：2020年11月14日（土）100周年記念ホール

○2020年度の主要コンクール入賞

- ・第1回 ジュニアオンラインピアノコンクール 優秀賞
- ・第30回 日本クラシック音楽コンクール 優秀賞

○附属音楽教室2020年度在籍者数

- ・在籍者数 116名（入室生 66名、オープンシステム受講生 50名）
- ・附属幼稚園ソルフェージュクラス 29名（園児 24名、卒園児 5名）

(9)業務運営の改善及び効率化

①組織運営

○事務組織の強化

2020年度12月より入試広報に関する取組強化を図るため事務組織の改編を実施した。少子化の進展により今後の18歳人口の減少を勘定すると人口減に伴う受験者数減は避けられない状況であり、既にその傾向は本学受験者数の推移に現れている。さらに、全大学入学者数に占める「音楽学部」への入学者数からも、その割合は年々減少している状況である。

今後の入学者確保において入試広報の果たす役割は重要であることから現状の広報業務を効率的に進めることを目的に業務の一元化を行い事務組織の強化を図った。具体的には、学務部入学支援室と学務部特別入試対策室を総務部広報課に統合するとともに、一部学務部入試課が所掌していた広報関連業務を総務部広報課に移換して、総合的かつ戦略的な入試広報業務をさらに推進する体制とした。

○事務職員研修

大学のマネジメントにあたっては、教員と協働する高い専門性を持った人材が求められている。筑波大学（筑波大学大学研究センター）が実施する2020年筑波大学履修証明プログラム「大学マネジメント人材養成」は、そのような人材を養成することを目的とし、キャリアアップを希望する職員や大学に関する基礎的知識を持たない他業種からの転職者に対して実践的な教育機会を提供するものである。

2020年度においては、学務部教務課長他2課長が参加（10月～3月）し、所定の成果をあげたところである。大学経営をめぐる諸環境の変化、とりわけ18歳人口の減少や教育研究のグローバル化、知識基盤社会の到来などにより、ガバナンスやマネジメントの強化を通じた大学改革が求められている中、組織・制度面での改革に加えて、大学改革を担う人材の養成

が不可欠である。

本研修については、高度化する大学マネジメントを担う職員と質の高い教育政策の企画立案を担う職員への期待が大きいことから、定期的に受講していく。

また、公益社団法人私学経営研究会が主催する特別セミナー「寄附行為・就業規則及び諸規定に作成と再検討」(11月)に2名の若手職員が参加した。

○人事計画及び人件費削減

少子化の進展による今後の18歳人口の減少を勘定すると、人口減に伴う受験者数減は避けられないところであり、人件費の削減に向けた取組みが求められている。2020年度においては、事務職員の雇用について見直しを図り、複数年の配置が必要と認められる業務については、契約職員(任期制)を公募採用する方針とし、短期的雇用(派遣)職員が行う業務との明確化を図り、経費削減への取組みを行った(前年度実績額との比較△約15百万円)。また、事務職員に対し、業務の効率化・合理化を抜本的に見直すことを推進し、人件費の抑制を図ったものとして、時間外勤務を可能な限り抑制するよう周知徹底を行い、経費削減を実行した(前年度との比較△約15百万円)。

また、2020年度はコロナ禍において、その対応に新たな支出予算を必要としたことから、経営状況改善の取組みとして、教職員の冬期賞与を削減(10%)し、人件費削減への取組みを図った(前年度冬期賞与支給額との比較△約24百万円)。

○給与制度改革

本学の給与制度改革については、給与等研究会において、(1)能力と業績評価に応じた給与体系の検討、(2)諸手当の整理・見直しの検討、(3)大学院手当の見直しの検討、(4)非常勤教員の給与体系及び実績・評価の考え方の検討、(5)給与関係規程・規則等の再点検等の観点から検討を実施している。2020年度においては、財政基盤となる人件費の安定化と雇用体制の効率性と有効性を観点とした仕組みを検討(開催:9回)し、新たに「非常勤教職員の給与に関する規程」(令和3年4月1日施行)を策定した。本規程により授業等の実施に伴う給与支給に関するエビデンスの明確化、複雑な現行手続きに関する効率化に資することとなる。また同研究会においては、現行の給与規程について専任教職員の給与に関しても非常勤教職員の給与同様に見直しを検討を開始した。

②事務の効率化・合理化

○調達手続きの適正化・効率化の推進

2020年度から消耗品及び備品の発注等については、施設課に集約することで、予算的確かかつ効率的な執行手続きを行える体制を整えた。

これまでは、各部署等において調達手続きを行っていたが、5月12日に通知した「備品等の発注・検収に関する取扱い要領」に基づき、各部署から購入申請書を施設課へ提出し、適正な手続き(必要な仕様書を作成し、原則3社からの見積徴取し、契約締結、納品検収、支払申請)を行っている。その結果、2020年度は、支払管理システム(キントーン)の処理件数4,533件のうち、施設課において処理した手続きは1,243件となった。今後は、業務ごとに、仕様書・契約書の定型化を行い、より適正かつ効率的な執行が求められる。

○学修成果の可視化等への取組み

本学事務局にIR室が設置(2018年9月)された直後の2018年11月26日、中央教育審議会より答申のあった「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、2040年の展望と高等教育が目指すべき姿として、(1)学修者本位の教育への転換が不可欠であること。(2)教育研究体制としては多様性と柔軟性において、多様な学生、多様な教員、多様な教育プログラム、多様性を受け止める柔軟なガバナンス及び大学の多様な「強み」の強化などの確保が重要であること。(3)教育の質の保証と情報公表として、「学び」の質保証の再構築が必要であることが示された。

また、2020年4月における学校教育法や私立学校法の改正などの法的な整備が進む中で、本学における教育研究水準の維持や、大学評価基準への適合、運営基盤の強化及び透明性に努めることが求められている。本学が置かれている環境は、従前と比較して大きく変わってきており、中期的計画の策定や具体的な運営において、エビデンスベースで行うことが不可欠になっていることから、「東京音楽大学FACT BOOK」を充実させ、本学にとってより効果的で実効性のある業務遂行(将来構想、計画策定、政策決定、経営判断等)を進めるための意思決定支援ツールとする。

本学においては、2019年7月より「東京音楽大学FACT BOOK」作成に係る計画が進行しており、学内外の諸情報の収集・分析及び可視化を推進するため、複数年にわたり教育、研究、財務等に関する現状を包括的に把握し、他大学との比較についても含みながら見やすい図や表、グラフ等に整理する取組みを実施しており、2021年度に第一版を作成することとしている。

○2 キャンパス運用に伴う業務の合理化

池袋キャンパスにおいて、清掃・衛生・設備管理業務、建物・設備保全業務、警備防災業務を担当している業者からの申出により、令和2年9月末をもって契約解除することとなった。今回の契約解除に伴い新たな業者選定を行い、中目黒・代官山キャンパスにて、これらの業務を担当している業者のこれまでの業務実績等を鑑み、池袋キャンパスの業務についても同業者に委託することとなった。

現状キャンパス単位で別々に同業者と契約を締結しているため、2020年度は両キャンパスとしてこれら業務の一元化、複数年契約の締結に向け、仕様書及び契約書について検討を行い、契約締結の準備を行った。

○施設の有効活用

2020年5月27日の理事会において、本学施設(ホール・教室等)の貸出業務を分掌する社会連携部事業課を事務局に新たに設置し、2019年度に制定した「東京音楽大学施設貸出規程」に基づき、中目黒・代官山キャンパス、池袋キャンパスの両キャンパスにおいて、教育研究及び社会貢献に関わる活動を目的とした諸団体に対し、積極的な施設貸出を行った。

- ・2020年度施設貸出、ロケーション事業実績 34件

○情報化の推進

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響を受け、遠隔授業を主体とした授業動画配信や非対面型のテレビ会議システムを活用した授業が主体となった。昨年導入された学務システムにより、授業履修に関するお知らせや課題管理は円滑に機能させることができたが、教員授業の動画化のための機材準備、実際の動画収録、コンテンツの管理・運営などについては新たな体制の整備が必要となった。

特にIT利用の側面においては、授業動画の配信場所（Webサーバー、Youtube等）の検討と、一斉同時配信に耐えうるネットワーク帯域の確保、zoom等を利用した非対面型授業利用形態の利用支援が最重要課題となり、これからの課題に対処すべく全学的なIT利用体制の充実化に向け、以下のとおり実施した。しかし、2020年度に計画していた案件も含めこれまでの学内のIT化が役に立った一方で、足りないサービスが浮き彫りとなり今後の改善が急務となっている。

(ア) 2020年度事業概要

事業名	実施時期	場所	事業内容
池袋キャンパスの老朽化したネットワーク機器のリプレイス	2020/3	池袋キャンパス	各建屋に設置されている機器類（FW/ルーター/スイッチ）が経年劣化（10年以上経過）の為、故障リスクや通信速度的なストレスが発生している状況を鑑み機器のリプレイス及びネットワークの再設計を行い（100M通信機器の撤廃、1G通信機器の設置）通信速度の向上とセキュリティレベルの強化につながっている。
ネットワーク監視強化	2020/06～2021/3		急激なネットワーク需要の増加により、ネットワークトラフィックの監視、セキュリティリスクの早期発見・解決を図るためネットワーク監視システムを導入した。 各キャンパス・データセンター間、インターネット向けのネットワーク利用状況の統合管理を行うことでより高い水準での監視につながっている。
Wi-fiサービスの改善、提供エリアの拡大	2020/08～2021/3	中目黒・池袋キャンパス	ネットワーク利用が不安定、接続できないエリア・建物があり、これらの場所に追加でアクセスポイントの増設やチューニングを行うことで、快適な利用状況になるよう改善を行った。

③自己点検・評価活動の充実

2020年4月1日施行の私立学校法に伴い、「学校法人の責務」、「学校法人の管理運営制度の改善」、「事業に関する中期的な計画」及び「学校法人の運営の透明性の向上」などについて法制化された。特に、事業に関する中期的な計画の作成が義務付けられ、事業計画及び事業に関する中期的な計画を作成するに当たっては、認証評価の結果を踏まえて作成しなければならないものとされた。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度の自己点検・評価委員会は1回のみ開催となったが、2015～2019年度実施事業を対象に委員会が作成した報告書案に、事務局が追記、修正を行い自己点検・評価報告書の作成を進めた。

本報告書を公開した上で、2022年度に迫った次回認証評価の受審に向けて本格的な準備を開始した。

(10)法人運営の改善

①経営・ガバナンス強化

○法人経営

2020年4月1日施行された私立学校法の改正では、役員の職務及び責任の明確化等に関する規程の整備、情報公開の充実及び中期的な計画の作成など学校法人の経営管理に関する改正事項が多岐にわたっている。

2020年度より本学では、法改正に対応し、寄附行為、寄附行為施行規則の改正・運用をはじめ役員報酬規程の制定・公表など学校法人としての自立的で意欲的なガバナンスの改善、経営強化のための制度を整えることにより、法人の意思決定を適切に機能させる体制を構築した。また、機動的な意思決定を行うため理事会運営機能を補完する体制をより強化するために、常勤理事会を定例会議（月2回）とするなど機能強化を推進した。

○私立大学版ガバナンス・コードの策定

日本私立大学協会が制定した「私立大学版ガバナンス・コード」は、大学の建学の精神、理念に従い、これを規範として大学の実情に応じて、公共性と自主性を基本にした自律的な取り組みおして活用されることが期待されている。

本学では、「私立大学版ガバナンス・コード制定の目的・意義」に掲げられている内容を踏まえるとともに、「制定における指針」に掲げられている5つの原則を考慮して「東京音楽大学ガバナンス・コード（素案）」について理事会において審議を行った。

(11)施設整備計画

①教育研究環境の整備

○池袋キャンパス再整備計画

2020年度は、附属図書館・附属幼稚園の改修整備計画立案のための課題抽出について、①施設環境として、現状の魅力と課題の検討、②法規系課題に関わる詳細分析検討、③構造系課題に関わる詳細分析検討、④フレームワーク計画による事業規模予測、⑤B館・C館・附属図書館に係る敷地・床面積の精査を行い、解決しなければならない課題を特定した。あわせて、附属図書館と財務施設部において、学修支援、学術資料の整理・活用等について議論

を行い、付属図書館を最大限活用する基本的な考え方等について、整備計画に反映することとしている。なお、これらの検討・議論の中では、A館・B館・C館の活用計画も議題として取り上げており、その結果を次年度以降の整備計画に反映していくこととしている。

なお、令和3年度に作成することが求められた「耐震化年次計画」(2文科高第933号令和3年1月12日付「私立学校施設の耐震化等防災機能強化について(通知)」)の策定についても、踏まえた上で整備計画の検討を進めた。

また、政府が進める「学校における既存の塀の安全対策」を踏まえ池袋キャンパス(B館、C館、付属図書館周辺)の塀の状況を調査するとともに、補助金等を活用した整備について検討を実施した。

○総合施設管理への一元化

建物保全業務については、池袋キャンパスにおいて、清掃・衛生・設備管理業務、建物・設備保全業務、警備防災業務に係る業務を見直し、中目黒・代官山キャンパスにおいて、同様の業務を実施している業者に池袋キャンパスの業務も一元化して委託することとした。2020年度の事業計画において計画していた、両キャンパスにおける業務の一元化、複数年契約の締結に向け、仕様書及び契約書について検討を行い、契約締結の準備を行った。

○省エネ活動の推進

省エネ活動の推進については、保全業務受託者からの提案により、2020年度より省エネ管理標準による管理を開始した。また、保全業務受託業者からの提案のあった経年による省エネ活動のための実施体制について、構成案を作成した。

②安全管理

○防災・危機管理体制の充実

2020年度は、防災対策として「災害対策マニュアル」の作成・配布の実施とともに、本学学内システムのユニバーサルパスポートの機能を活用し、教職員を対象とした安否確認の試行を行った。また、目黒区が事務局となっている中目黒駅周辺帰宅困難者対策協議会への参加、池袋キャンパス消防計画の改訂作業を行った。

なお、中目黒駅周辺帰宅困難者対策協議会では、本学をモデルとした「帰宅困難者一時滞在施設運営マニュアル」を作成してもらい、次年度このマニュアルを踏まえ、本学のBCP(Business continuity planning:事業継続計画)の作成する予定である。

○PCB廃棄物処理事業

PCB廃棄物処理の期限は、変圧器・コンデンサーが2022年度末、安定期・汚染物等が2023年度末となっている。池袋キャンパス、目白台寮、付属高校において保管する低濃度PCB廃棄物は、2020年度の処分を完了した(高濃度のPCB廃棄物については、東京と北海道の最終処分場に搬出を完了し、処分は2021年7月頃までに完了予定)。

また、2021年3月、高濃度のPCB廃棄物の搬入を行っている際に、取り外した蛍光灯安定器2基にPCB廃棄物が含有されていることが確認されたため、B館・C館・付属図書館にある照明器具について、PCB廃棄物含有調査を行う準備をした。

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

2020年度「東京音楽大学中期目標・中期計画（2016年度開始6年計画）」の5年目であり、コロナ禍等各種制約の中、教育の質を維持する諸施策について取組み、多大な成果を挙げることができた。

また、2019年度開校した「中目黒・代官山キャンパス」・2020年度附属高校「池袋キャンパス」移設等により、2キャンパス体制の一層の充実に取り組み、「コロナ禍」という未曾有の事態に接し、円滑なりモート授業実施のため「遠隔授業環境整備奨学金(全学部生・院生1人10万円)」を支給した。

予算編成及び執行について、「学生本位」との信条のもと、編成重点方式採用と、執行についても、必要性の是非を検討しつつ、きめ細かく実施した。

○今後の展望

中目黒・代官山キャンパス、池袋キャンパスとの2キャンパス体制における施設設備面の充実に力を注ぐとともに、中長期的財務計画を定め、財務の健全化に全力で取り組む。

(1)貸借対照表の状況

法人全体の総資産は380億円となり、前年度より21億円減少となっている。

○有形固定資産：△296百万円

・新寮建設予定地のK館除却(△486,604,960円)と池袋キャンパス多目的グラウンド(58,300,000円)による。

○特定資産：67百万円増

・退職金特定資産増等による。

○固定負債：△1,842百万円

・長期未払金の返済、長期借入金の減少(元本返済による)、退職給与引当金の増加(退職金に充てる資金として組入れ)

貸借対照表

■資産の部

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	36,780	37,029	△ 249
有形固定資産	29,698	29,994	△ 296
土 地	11,476	11,476	0
建 物	16,304	16,806	△ 502
その他の有形固定資産	1,915	1,709	206
特定資産	1,369	1,302	67
その他の固定資産	5,712	5,731	△ 19
流動資産	1,221	3,160	△ 1,939
現金預金	1,043	2,920	△ 1,877
その他の流動資産	177	238	△ 61
資産の部 合計	38,002	40,189	△ 2,187

■負債の部

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	11,459	13,302	△ 1,842
長期借入金	10,301	11,102	△ 801
その他の固定負債	1,156	2,199	△ 1,043
流動負債	2,036	1,676	360
短期借入金	800	300	500
その他の流動負債	1,234	1,374	△ 140
負債の部 合計	13,496	14,978	△ 1,482

■純資産の部

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	35,967	35,159	808
第1号 基本金	35,470	34,664	806
第3号 基本金	215	213	2
第4号 基本金	282	282	0
繰越収支差額	△ 11,462	△ 9,949	△ 1,513
翌年度繰越収支差額	△ 11,462	△ 9,949	△ 1,513
純資産の部 合計	24,505	25,210	△ 705
負債及び純資産の部 合計	38,002	40,189	△ 2,187

(2) 収支計算書の状況

資金収支計算書

■収入の部

(単位：百万円)

科 目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,371	3,386	△ 15
手数料収入	26	26	0
寄付金収入	13	34	△ 21
補助金収入	463	509	△ 46
資産売却収入	5,100	1,489	3,611
付随事業・収益事業収入	21	0	21
受取利息・配当金収入	57	50	7
雑収入	156	153	3
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	254	903	△ 649
その他の収入	1,320	1,861	△ 541
資金収入調整勘定	△ 1,859	△ 1,063	△ 796
前年度繰越支払資金	2,920	2,920	
収入の部 合計	11,845	10,271	1,574

■支出の部

(単位：百万円)

科 目	予算	決算	差異
人件費支出	2,664	2,558	106
教育研究経費支出	1,050	962	88
管理経費支出	302	376	△ 74
借入金等利息支出	50	51	△ 1
借入金等返済支出	299	300	△ 1
施設関係支出	562	399	163
設備関係支出	130	134	△ 4
資産運用支出	100	2,056	△ 1,956
その他の支出	1,532	2,682	△ 1,150
〔予 備 費〕	5		5
資金支出調整勘定	△ 217	△ 294	77
翌年度繰越支払資金	4,261	1,043	3,218
支出の部 合計	11,845	10,271	1,574

活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

		科 目	金 額
		教育活動による資金収支	収入
		手数料収入	26
		特別寄付金収入	23
		一般寄付金収入	9
		経常費等補助金収入	500
		雑収入	153
		教育活動資金収入計	4,098
	支出	人件費支出	2,558
		教育研究経費支出	962
		管理経費支出	376
		教育活動資金支出計	3,898
		差引	200
		調整勘定等	△ 716
		教育活動資金収支差額	△ 516
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	施設設備寄付金収入	1
		施設設備補助金収入	8
		施設整備等活動資金収入計	10
	支出	施設関係支出	399
		設備関係支出	134
		施設整備等活動資金支出計	533
		差引	△ 523
		調整勘定等	△ 485
		施設整備等活動資金収支差額	△ 1,008
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△ 1,525
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	有価証券売却収入	1,489
		退職給与引当特定資産取崩収入	500
		短期貸付金回収収入	0
		預り金受入収入	1,106
		立替金回収収入	20
		仮払金回収収入	13
		保証金回収収入	0
		小計	3,131
		受取利息・配当金収入	50
		その他の活動資金収入計	3,181
	支出	借入金等返済支出	300
		有価証券購入支出	1,490
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	2
		退職給与引当特定資産繰入支出	564
		立替金支払支出	18
		仮払金支払支出	12
		預り金支払支出	1,093
		小計	3,481
	借入金等利息支出	51	
	その他の活動資金支出計	3,533	
	差引	△ 351	
	調整勘定等	0	
	その他の活動資金収支差額	△ 352	
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)			△ 1,877
前年度繰越支払資金			2,920
翌年度繰越支払資金			1,043

2. 経年比較

(1) 貸借対照表

貸借対照表 経年比較表

■資産の部

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産	33,355	33,981	37,255	37,029	36,780
有形固定資産	24,966	22,147	30,246	29,994	29,698
土 地	11,476	11,476	11,476	11,476	11,476
建 物	5,950	6,258	16,949	16,806	16,304
その他の有形固定資産	7,536	4,410	1,818	1,709	1,915
特定資産	1,010	1,981	1,250	1,302	1,369
その他の固定資産	7,377	9,852	5,759	5,731	5,712
流動資産	3,945	3,577	2,308	3,160	1,221
現金預金	3,628	3,146	2,041	2,920	1,043
その他の流動資産	316	428	266	238	415
資産の部 合計	37,301	37,559	39,564	40,189	38,002

■負債の部

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定負債	9,303	9,731	11,059	13,302	11,459
長期借入金	8,411	8,911	10,019	11,102	10,301
その他の固定負債	891	820	1,040	2,199	1,156
流動負債	1,845	1,699	2,593	1,676	2,036
短期借入金	500	490	392	300	800
その他の流動負債	1,343	1,207	2,199	1,374	1,234
負債の部 合計	11,149	11,431	13,653	14,978	13,496

■純資産の部

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
基本金	29,726	27,099	33,387	35,159	35,967
第1号 基本金	29,325	25,656	32,895	34,664	35,470
第2号 基本金	8	1,050	0	0	0
第3号 基本金	110	110	210	213	215
第4号 基本金	282	282	282	282	282
繰越収支差額	△ 3,575	△ 972	△ 7,475	△ 9,949	△ 11,462
翌年度繰越収支差額	△ 3,575	△ 972	△ 7,475	△ 9,949	△ 11,462
純資産の部 合計	26,151	26,127	25,911	25,210	24,505
負債及び純資産の部 合計	37,301	37,559	39,564	40,189	38,002

(2) 収支計算書

① 資金収支計算書

資金収支計算書 経年比較表

■ 収入の部

(単位：百万円)

科 目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
学生生徒等納付金収入	3,422	3,333	3,364	3,368	3,386
手数料収入	25	26	26	25	26
寄付金収入	32	29	74	73	34
補助金収入	684	404	391	469	509
資産売却収入	1,500	4,526	1,801	1,204	1,489
付随事業・収益事業収入	65	70	57	10	0
受取利息・配当金収入	111	130	63	52	50
雑収入	144	173	256	258	153
借入金等収入	2,230	0	2,000	1,400	0
前受金収入	901	969	905	899	903
その他の収入	2,082	2,772	2,236	1,733	1,861
資金収入調整勘定	△ 1,305	△ 1,090	△ 1,220	△ 1,124	△ 1,063
前年度繰越支払資金	7,618	3,146	3,628	2,041	2,920
収入の部 合計	17,513	14,493	13,585	10,412	10,271

■ 支出の部

(単位：百万円)

科 目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
人件費支出	2,628	2,698	2,753	2,777	2,558
教育研究経費支出	629	619	678	853	962
管理経費支出	349	346	394	425	376
借入金等利息支出	47	48	46	47	51
借入金等返済支出	435	490	500	409	300
施設関係支出	4,119	3,122	5,041	1,525	399
設備関係支出	105	107	878	195	134
資産運用支出	4,839	2,160	867	232	2,056
その他の支出	1,492	1,619	1,648	2,579	2,682
〔予 備 費〕					
資金支出調整勘定	△ 280	△ 348	△ 1,266	△ 1,555	△ 294
翌年度繰越支払資金	3,146	3,628	2,041	2,920	1,043
支出の部 合計	17,513	14,493	13,585	10,412	10,271

②活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書 経年比較表

(単位：百万円)

		科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,422	3,333	3,364	3,368	3,386
		手数料収入	25	26	26	25	26
		特別寄付金収入	16	16	3	3	23
		一般寄付金収入	15	11	8	27	9
		経常費等補助金収入	431	404	391	469	500
		付随事業収入	65	70	57	10	0
		雑収入	144	173	256	258	153
		教育活動資金収入計	4,121	4,036	4,108	4,163	4,098
	支出	人件費支出	2,628	2,698	2,753	2,777	2,558
		教育研究経費支出	629	619	678	853	962
管理経費支出		349	346	394	425	376	
教育活動資金支出計		3,607	3,664	3,826	4,057	3,898	
	差引	514	372	281	106	200	
	調整勘定等	△ 14	102	△ 21	△ 11	△ 716	
	教育活動資金収支差額	499	474	259	95	△ 516	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	0	1	62	42	1
		施設設備補助金収入	252	1,050	0	1,104	8
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	630	0	17	0	0
		施設整備等活動資金収入計	882	1,052	80	1,146	10
	支出	施設関係支出	4,119	3,122	5,041	1,525	399
		設備関係支出	105	107	878	195	134
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	8	8	0	0
		施設整備等活動資金支出計	4,225	3,238	5,929	1,721	533
		差引	△ 3,342	△ 2,185	△ 5,848	△ 574	△ 523
		調整勘定等	△ 216	238	816	315	△ 485
	施設整備等活動資金収支差額	△ 3,558	△ 1,946	△ 5,031	△ 258	△ 1,008	
	小計	△ 3,058	△ 1,472	△ 4,771	△ 163	△ 1,525	
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	2,230	0	2,000	1,400	0
		有価証券売却収入	1,500	4,526	1,801	100	1,489
		第3号基本金引当特定資産取崩収入	80	80	110	180	0
		退職給与引当特定資産取崩収入	0	0	500	0	500
		短期貸付金回収収入	0	0	0	0	0
		研修旅行費等預り金収入	12	9	0	0	0
		預り金受入収入	1,116	1,118	1,216	1,265	1,106
		立替金回収収入	46	50	45	19	20
		仮払金回収収入	49	51	52	17	13
		預け金回収収入	0	0	100	0	0
		小計	5,036	5,836	5,826	2,982	3,131
		受取利息・配当金収入	111	130	63	52	50
		その他の活動資金収入計	5,148	5,967	5,889	3,035	3,181
	支出	借入金等返済支出	435	490	500	409	300
		有価証券購入支出	4,675	2,000	0	0	1,490
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	80	80	210	183	2
		退職給与引当特定資産繰入支出	84	71	648	49	564
		研修旅行費等預り金支出	12	9	0	0	0
		長期貸付金支払支出	0	0	0	0	0
		立替金支払支出	48	60	35	20	18
仮払金支払支出		48	51	52	16	12	
預り金支払支出		1,113	1,116	1,215	1,266	1,093	
預け金支払支出		0	100	0	0	0	
	小計	6,496	3,980	2,663	1,945	3,481	
	借入金等利息支出	47	48	46	47	51	
	その他の活動資金支出計	6,543	4,029	2,709	1,993	3,533	
	差引	△ 1,395	1,937	3,179	1,041	△ 351	
	調整勘定等	△ 17	16	5	0	0	
	その他の活動資金収支差額	△ 1,413	1,954	3,184	1,042	△ 352	
	支払資金の増減額	△ 4,471	481	△ 1,586	878	△ 1,877	
	前年度繰越支払資金	7,618	3,146	3,628	2,041	2,920	
	翌年度繰越支払資金	3,146	3,628	2,041	2,920	1,043	

③事業活動収支計算書

事業活動収支計算書 経年比較表

■教育活動収支

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金	3,422	3,333	3,364	3,368	3,386
手数料	25	26	26	25	26
寄付金	38	28	11	30	32
経常費等補助金	431	404	391	469	500
付随事業収入	37	41	28	0	0
雑収入	145	174	265	260	157
教育活動収入計	4,100	4,008	4,087	4,155	4,103
人件費	2,637	2,695	2,827	2,753	2,548
教育研究経費	960	982	1,048	1,464	1,598
管理経費	369	368	445	575	546
徴収不能額等	1	1	2	0	3
教育活動支出計	3,969	4,047	4,323	4,792	4,697
教育活動収支差額	131	△ 39	△ 235	△ 637	△ 594

■教育活動外収支

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
受取利息・配当金	111	130	63	52	50
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	111	130	63	52	50
借入金等利息	47	48	46	47	51
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	47	48	46	47	51
教育活動外収支差額	64	81	16	4	1
経常収支差額	195	42	△ 219	△ 632	△ 595

■特別収支

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
資産売却差額	0	53	50	0	0
その他の特別収入	252	7	65	43	11
特別収入計	252	61	116	43	11
資産処分差額	0	4	62	36	46
その他の特別支出	74	74	74	74	74
特別支出計	74	79	137	111	121
特別収支差額	178	△ 18	△ 20	△ 67	△ 109

基本金組入前当年度収支差額	373	24	△ 240	△ 700	△ 705
基本金組入額合計	△ 1,769	△ 2,626	△ 3,669	△ 1,772	△ 808
当年度収支差額	△ 1,395	△ 2,602	△ 3,909	△ 2,473	△ 1,513
前年度繰越収支差額	415	△ 972	△ 3,575	△ 7,475	△ 9,949
基本金取崩額	8	0	8	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 972	△ 3,575	△ 7,475	△ 9,949	△ 11,462

3. 主な財務比率比較

■事業活動収支関係財務比率

(単位：%)

比率項目	算出基準	評価	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
人件費比率	人件費/経常収入	▼	62.62	65.12	68.11	65.43	61.35
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	▼	77.06	80.86	84.04	81.73	75.25
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	△	22.80	23.74	25.27	34.80	38.48
管理経費比率	管理経費/経常収入	▼	8.76	8.91	10.73	13.68	13.16
寄付金比率	寄付金/事業活動収入	▼	0.85	0.86	1.81	1.73	0.87
補助金比率	補助金/事業活動収入	△	9.66	9.63	9.17	11.04	12.02
基本金組入率	基本金組入額/事業活動収入	▼	39.64	62.54	85.99	41.70	19.40

■貸借対照表関係財務比率

(単位：%)

比率項目	算出基準	評価	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
固定資産構成比率	固定資産/総資産	▼	90.47	89.42	94.16	92.14	87.80
有形固定資産構成比率	有形固定資産/総資産	▼	58.97	66.93	76.45	74.63	58.20
特定資産構成比率	特定資産/総資産	△	5.27	2.71	3.16	3.24	21.50
流動資産構成比率	流動資産/総資産	△	9.52	10.58	5.84	7.86	12.20
固定負債構成比率	固定負債/総負債+純資産	▼	25.91	24.94	27.95	33.10	6.40
流動負債構成比率	流動負債/総負債+純資産	△	4.52	4.95	6.56	4.17	4.90

※評価・・・「△：高い値が良い」、「▼：低い値が良い」

4. その他

(1) 有価証券、借入金、学校債、その他重要な資産・負債、収入・支出の状況

■有価証券の時価情報

(単位：千円)

	勘定科目	当年度(2021年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	第3号基本金引当特定資産 有価証券	— 2,490,000	— 2,516,250	— 26,250
(うち満期保有目的の債権)		(2,490,000)	(2,516,250)	(26,250)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	第3号基本金引当特定資産 有価証券	200,301 500,000	199,602 494,150	△699 △5,850
(うち満期保有目的の債権)		(700,301)	(693,752)	(△6,549)
合計	第3号基本金引当特定資産 有価証券	200,301 2,990,000	199,602 3,010,400	△699 20,400
(うち満期保有目的の債権)		(3,190,301)	(3,210,002)	(19,701)
時価のない有価証券	第3号基本金引当特定資産 有価証券	— —		
	第3号基本金引当特定資産有価証券 合計 有価証券 合計	200,301 2,990,000		

■借入金の情報

(単位：百万円)

借入先	期末残高	返済期限	摘要1
日本私立学校振興・共済事業団	1,400	2029/09/15	校舎資金 校地及び校舎担保
長期借入金市中金融機関 計	8,901	2025/9/30~2035/9/28	校地・校舎資金 校地及び校舎担保
長期借入金 計	10,301		
返済期限が1年以内の長期借入金	800		
短期借入金 計	800		
合計	11,102		

(2) 収益事業の状況

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

(単位：千円)

支出	金額	収入	金額
管理経費支出	125,864	補助活動収入	121,021
純 額	△ 4,843		

(3) 関連当事者等との取引等の状況 等

(単位:円)

属性	役員、法人等の 名称	住所	資本金又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権の 所有割合
理事長が代表社員で ある法律事務所	弁護士法人 名川・岡村法律事務所	東京都港区	—	法律事務所	—

関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
役員の兼任等	事実上の関係				
兼任1名	弁護士顧問契約	顧問料	2,640,000	—	0

(注) 取引価格については第三者との取引価格を参考に行っている。